

「（仮称）益田市こども計画」策定のための
アンケート調査結果報告書
《概要版》

令和6年9月
島根県 益田市

目 次

I. 調査の概要.....	1
調査目的.....	1
調査期間.....	1
調査概要.....	1
報告書をみる際の注意.....	1
II. 子ども・子育て支援に関する調査結果.....	2
1 子どもの育ちをめぐる環境について.....	2
2 保護者の就労状況について.....	4
3 子どもの「定期的」な教育・保育の利用状況について.....	6
4 子どもの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	7
5 地域子育て支援拠点（子育て支援センター等）事業の認知とニーズについて.....	8
6 子どもの病気やけがの際の対応について.....	10
7 放課後児童クラブ（学童保育）の利用について.....	11
8 職場の両立支援制度について.....	13
9 子どもや若者の意見反映について.....	15
10 子育て環境や支援への満足度について.....	16
III. 子どもの生活状況調査結果.....	17
1 子どもの勉強と進学について.....	17
2 子どもの食事と睡眠状況について.....	18
3 子どもの悩みごとや相談先について.....	19
4 最近の生活について.....	20
5 子どもの居場所について.....	22
6 現在の暮らしの経済的状況について.....	23
7 益田市へ伝えたいことについて.....	24
IV. こども・若者の意識と生活に関する調査.....	25
1 回答者自身について.....	25
2 居場所や周囲とのかかわりについて.....	27
3 外出状況について.....	29
4 日常生活について.....	29
5 子ども・若者を対象にした育成支援機関について.....	32
6 益田市へ伝えたいことについて.....	34

I. 調査の概要

調査目的

本調査は、こども基本法第10条に基づく「（仮称）益田市こども計画」策定の基礎資料として、本市のこども・若者及び子育て当事者の現状と課題を把握することを目的として実施しました。

調査期間

令和6年4月～5月

調査概要

	子ども・子育て支援に関する調査		子どもの生活状況調査		こども・若者の意識と生活に関する調査	
調査対象者	市内の就学前児童の保護者		市内の小学生（小学 1～6 年生）の保護者	市内の中学 2 年生 市内の中学 2 年生の保護者	市内在住の 16～39 歳	
調査方法	紙アンケート		紙アンケート	Web アンケート	Web アンケート	
アンケート実施方法	郵送による配布・回収	保育施設での配布・回収	郵送による配布・回収	QR コード付ハガキを郵送	QR コード付ハガキを郵送	
配布数	246 人	915 人	1,576 人	417 人	410 人	1,083 人
	合計：1,161 人					
回収数	88 人	599 人	609 人	76 人	112 人	162 人
	合計：687 人					
回収率	35.8%	65.5%	38.6%	18.2%	27.3%	15.0%
	合計：59.2%					

※就学前児童と小学生の両者がいる世帯には、それぞれ配布し、また、就学前児童同士のきょうだい、小学生同士のきょうだいがいる場合には下の児童の状況について回答を求めました。

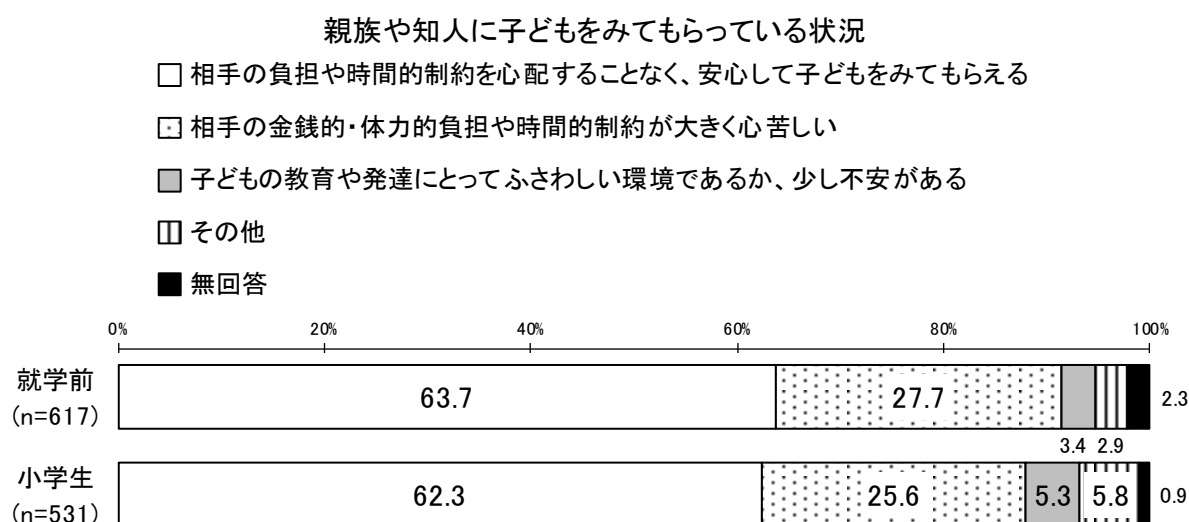
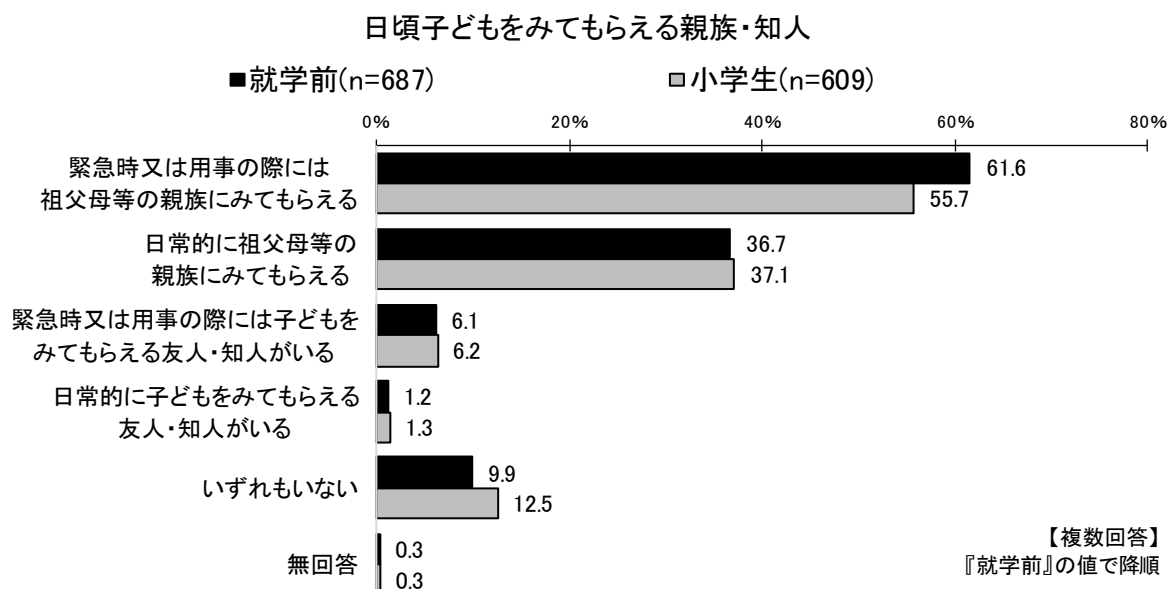
報告書をみる際の注意

- ・図表中の「n=○」とは、集計対象者総数（または分類別の該当対象者数）を示しています。
- ・調査結果の比率は百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答については、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフに関して、主に単純集計を単数回答は帯グラフ、複数回答は棒グラフとしています。選択肢の多い単数回答は棒グラフとし、年齢や日数等、数量で回答していただいた設問については、階級順の棒グラフ、あるいは表としてまとめています。また、帯グラフにおいては0.0%の表記を省略しています。棒グラフにおいては「その他」「わからない」「特になし」などの選択肢に該当しない、あるいは具体的な内容を含まないという選択肢を除き、割合による降順となっています。表に色が付いている場合は、横の項目でみて最も高い割合となっています。
- ・集計結果において、回答者を限定する設問などによっては該当者が少なくなり、割合が偏る、あるいは分散することがあります。
- ・子ども・子育て支援に関する調査結果では「就学前児童保護者」を「就学前」、「小学生保護者」を「小学生」と表記しています。

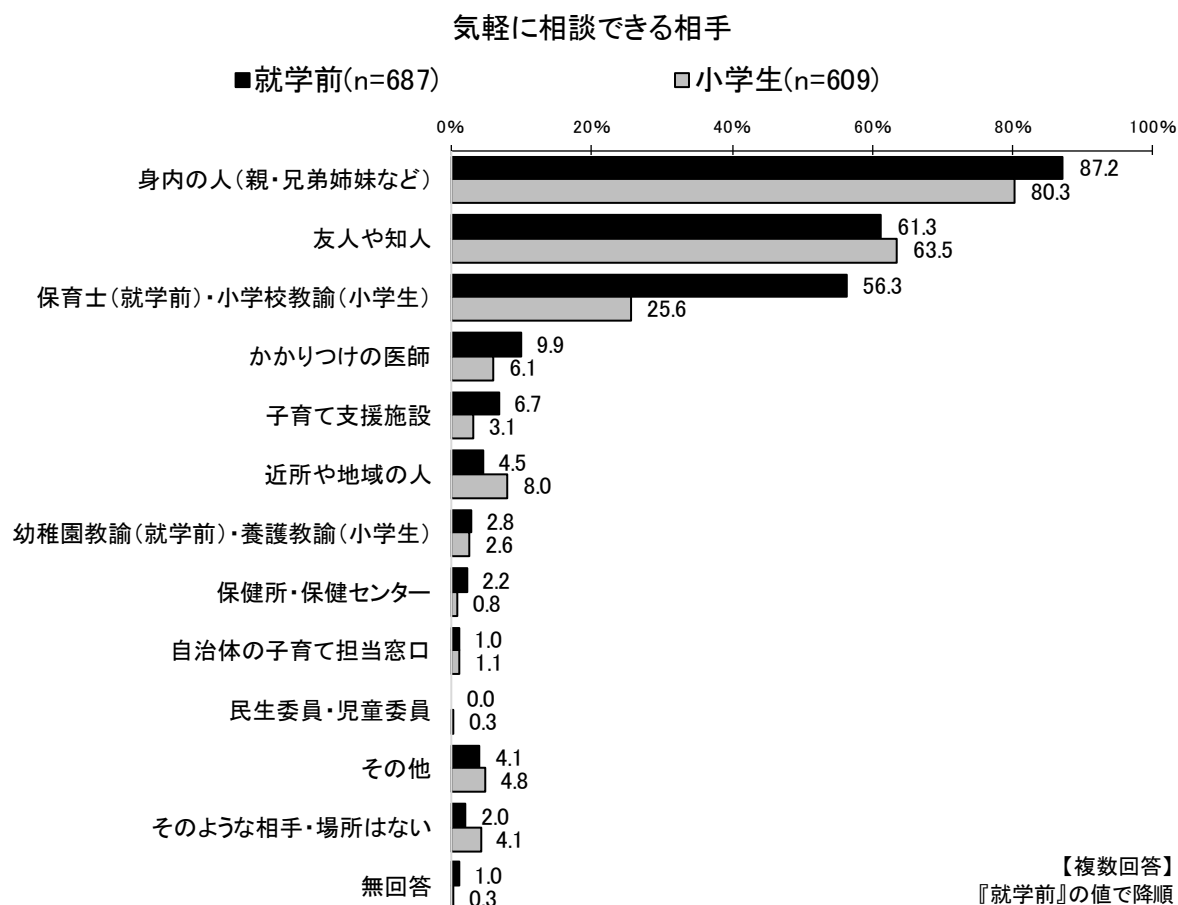
Ⅱ. 子ども・子育て支援に関する調査結果

1 子どもの育ちをめぐる環境について

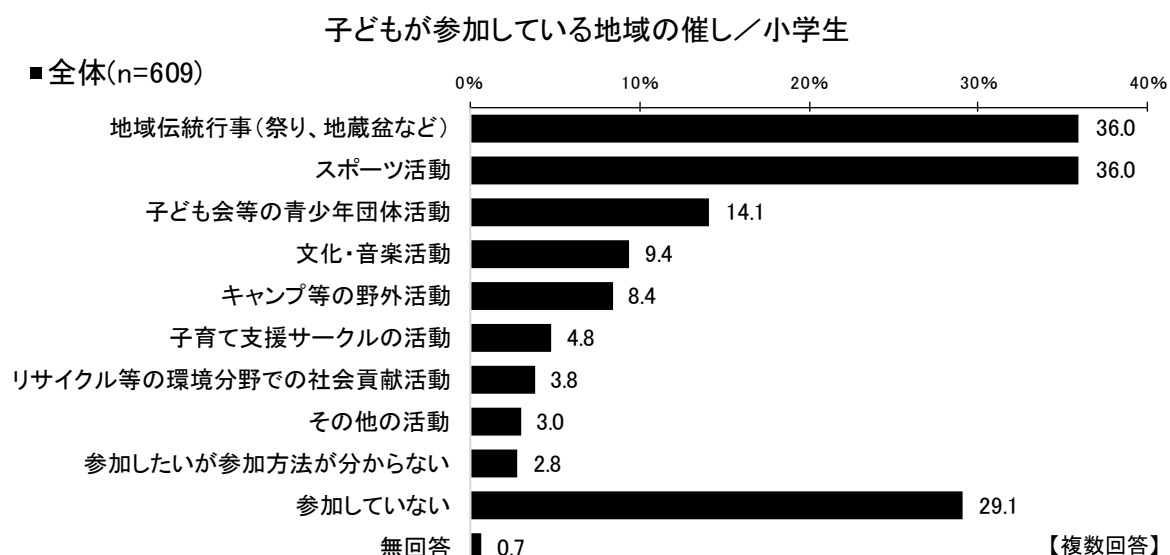
- ◆就学前児童保護者(以下「就学前」)では9.9%、小学生保護者(以下「小学生」)では12.5%が、日頃子どもをみてもらえる親族・知人の存在はないと回答
- ◆「相手の金銭的・体力的負担や時間的制約が大きく心苦しい」の割合が就学前では27.7%、小学生では25.6%



◆子育てについての相談者の存在について、就学前では「保育士」の割合が56.3%と半数以上。一方、小学生では「小学校教諭」の割合が25.6%で3割以下



◆「地域伝統行事(祭り、地蔵盆など)」「スポーツ活動」の割合が同率36.0%。一方、「参加していない」の割合が29.1%で約3割を占める。

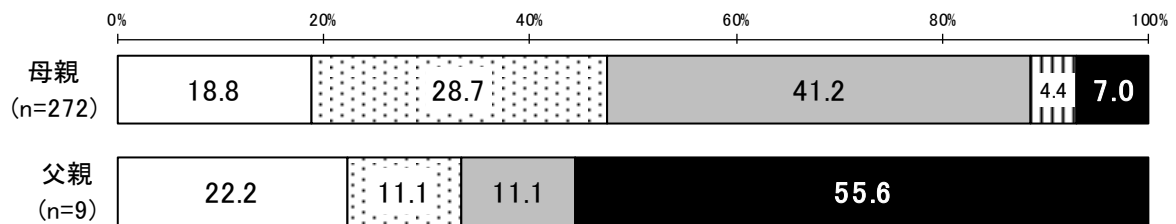


2 保護者の就労状況について

◆「出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」の割合は、就学前の母親で28.7%、小学生の母親で21.6%、小学生の父親で15.4%

フルタイム就労への転換希望／就学前

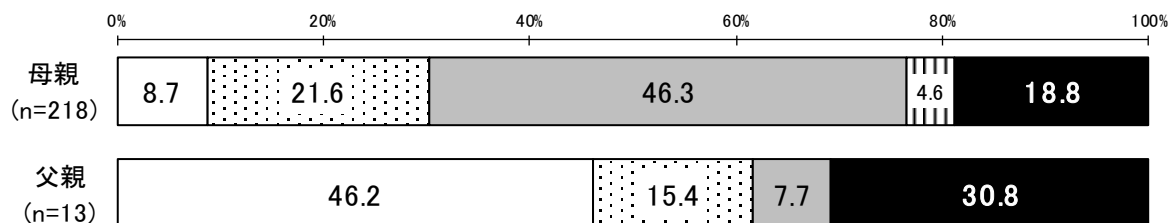
- ☐ 出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- ☒ 出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない
- ☐ 今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する
- ☐ 今後(も)就労せず、子育てや家事に専念したい
- ☐ 無回答



フルタイム就労への転換希望	回答数 (n) 【母親】	回答数 (n) 【父親】
出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	51	2
出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	78	1
今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する	112	1
今後(も)就労せず、子育てや家事に専念したい	12	0
無回答	19	5
非該当	415	678
全体(非該当除く)	272	9

フルタイム就労への転換希望／小学生

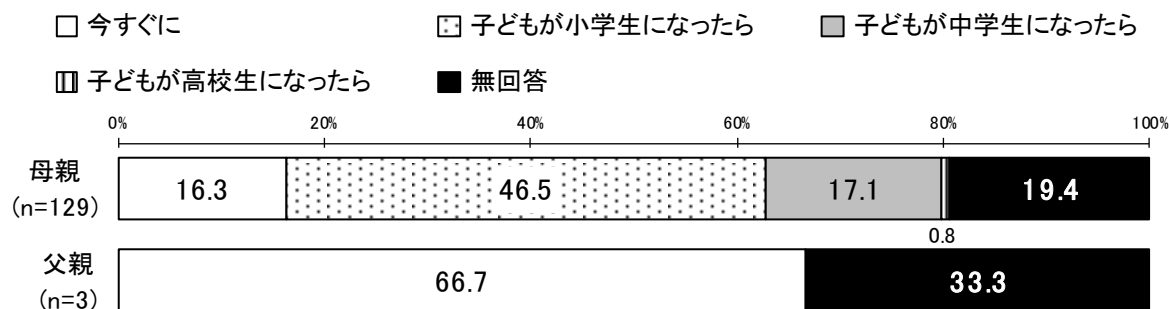
- ☐ 出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- ☒ 出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない
- ☐ 今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する
- ☐ 今後(も)就労せず、子育てや家事に専念したい
- ☐ 無回答



フルタイム就労への転換希望	回答数 (n) 【母親】	回答数 (n) 【父親】
出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	19	6
出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	47	2
今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する	101	1
今後(も)就労せず、子育てや家事に専念したい	10	0
無回答	41	4
非該当	391	596
全体(非該当除く)	218	13

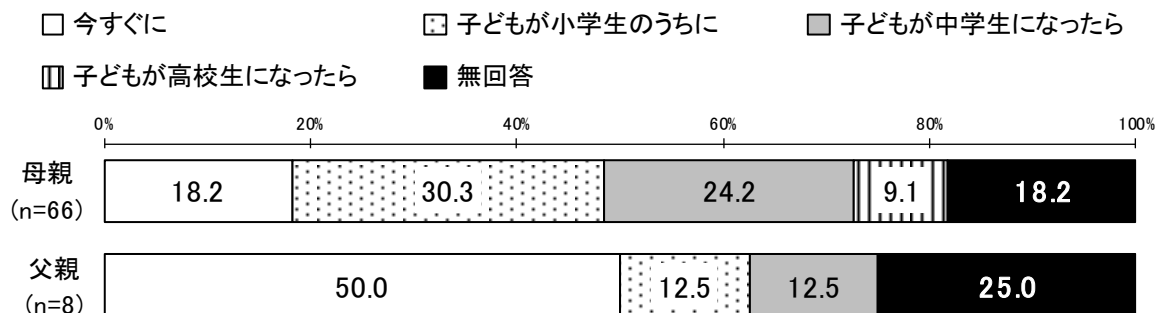
◆フルタイム就労への転換希望時期について「今すぐに」の割合は、就学前の母親で16.3%、小学生の母親で18.2%

フルタイム就労への転換希望時期／就学前



【父親】フルタイム就労への転換希望時期	回答数(n) 【母親】	回答数(n) 【父親】
今すぐに	21	2
子どもが小学生になったら	60	0
子どもが中学生になったら	22	0
子どもが高校生になったら	1	0
無回答	25	1
非該当	558	684
全体（非該当除く）	129	3

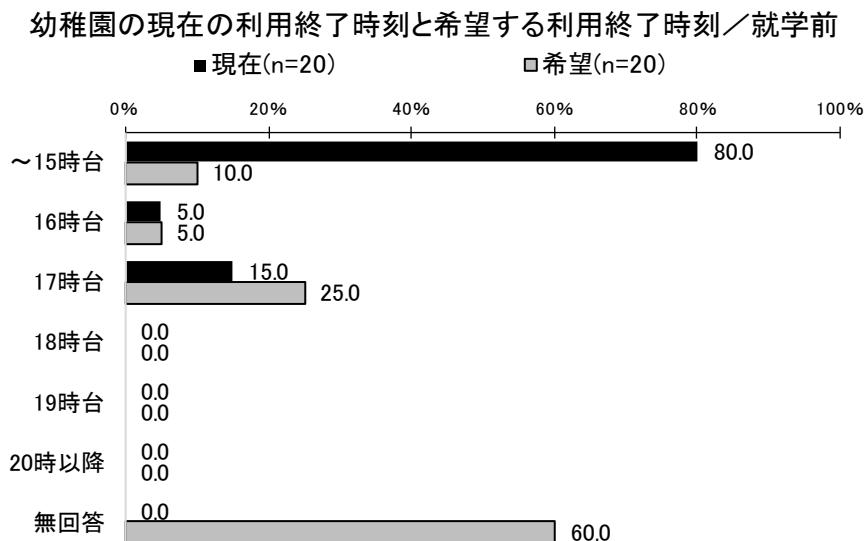
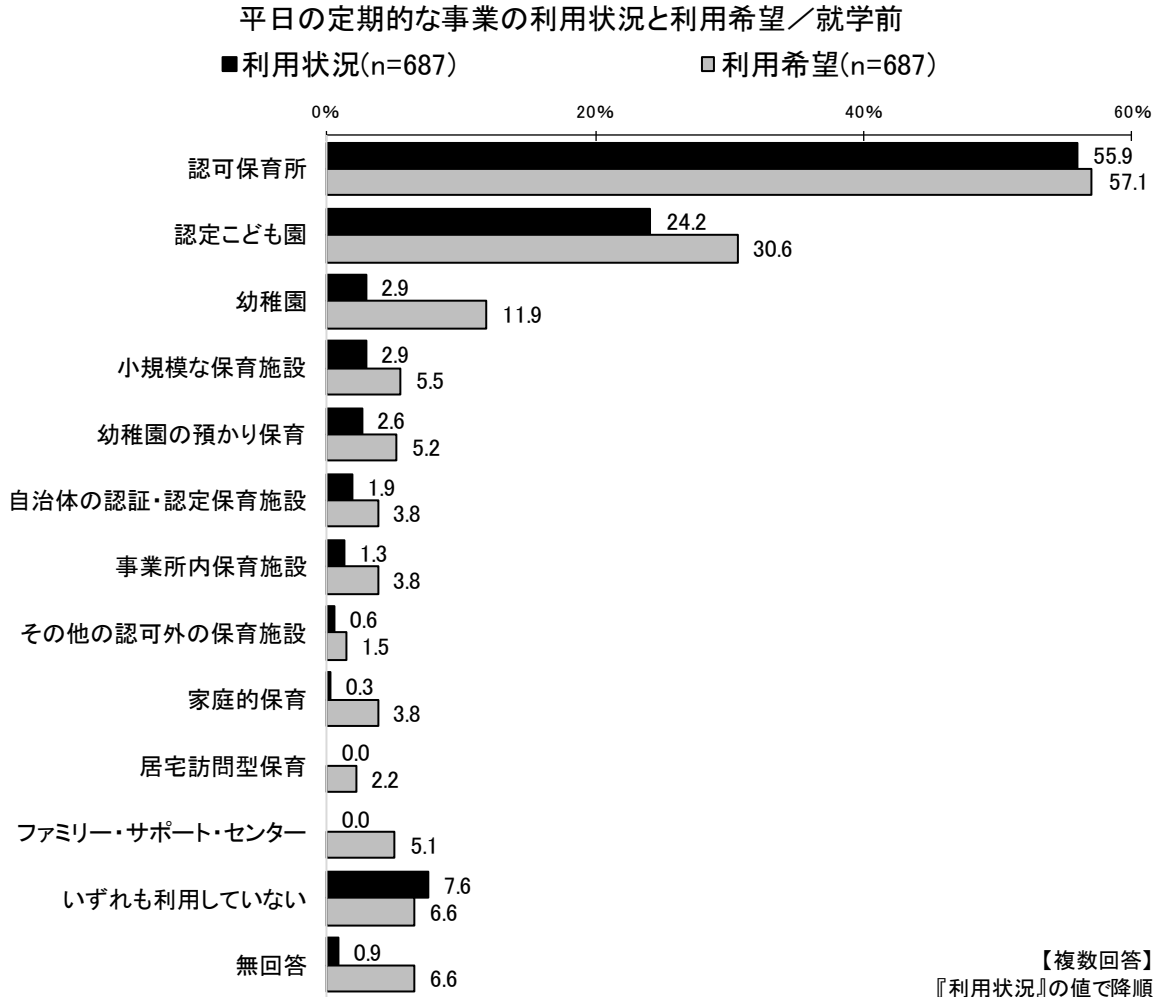
フルタイム就労への転換希望時期／小学生



【父親】フルタイム就労への転換希望時期	回答数(n) 【母親】	回答数(n) 【父親】
今すぐに	12	4
子どもが小学生のうちに	20	1
子どもが中学生になったら	16	1
子どもが高校生になったら	6	0
無回答	12	2
非該当	543	601
全体（非該当除く）	66	8

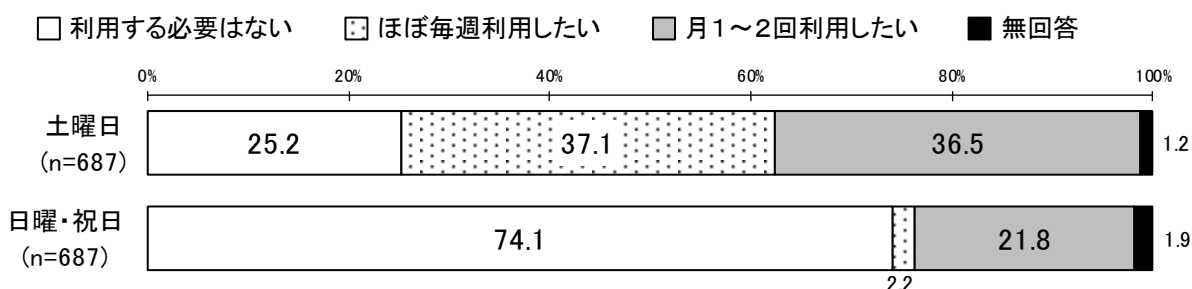
3 子どもの「定期的」な教育・保育の利用状況について

- ◆平日の定期的な教育・保育事業を利用したいと希望する割合の方が、利用状況の割合よりも全体的にやや高い
- ◆「幼稚園」では現在の利用終了時刻が「～15時台」の割合が最も高くなっている一方、希望する利用終了時刻は「17時台」が最も高い

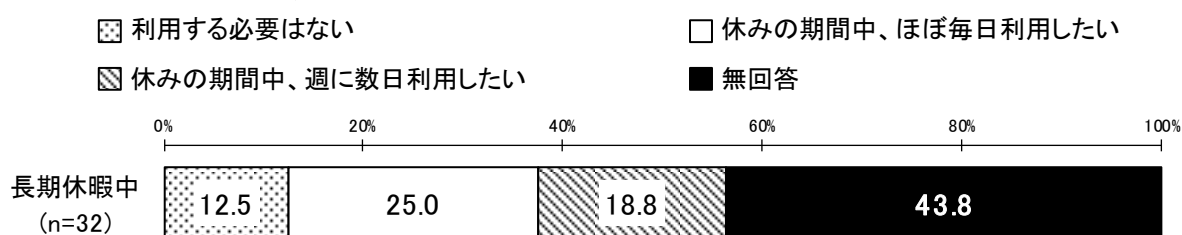


◆休日の定期的な教育・保育事業の利用を希望する人の割合は、土曜日では73.6%、日曜・祝日では24.0%、長期休暇中では43.8%

土曜日、日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望／就学前



長期休暇中の教育・保育事業の利用希望／就学前

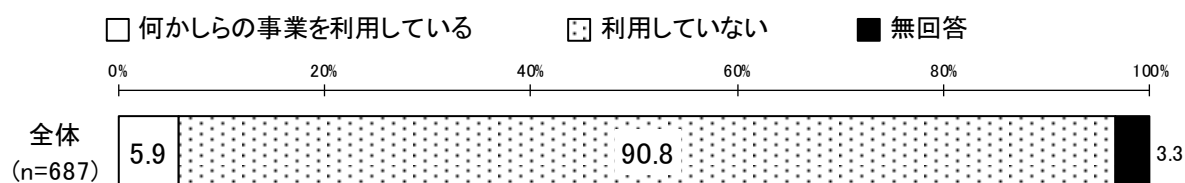


4 子どもの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

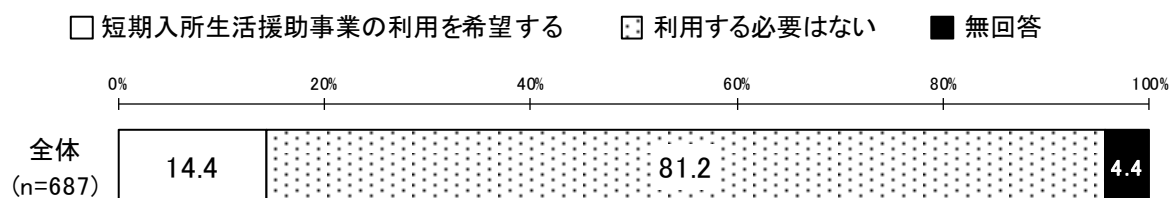
◆不定期で何かしらの事業を利用している人の割合は5.9%

◆短期入所生活援助事業の利用を希望する人の割合は14.4%

不定期な事業の利用有無／就学前



短期入所生活援助事業の利用希望／就学前

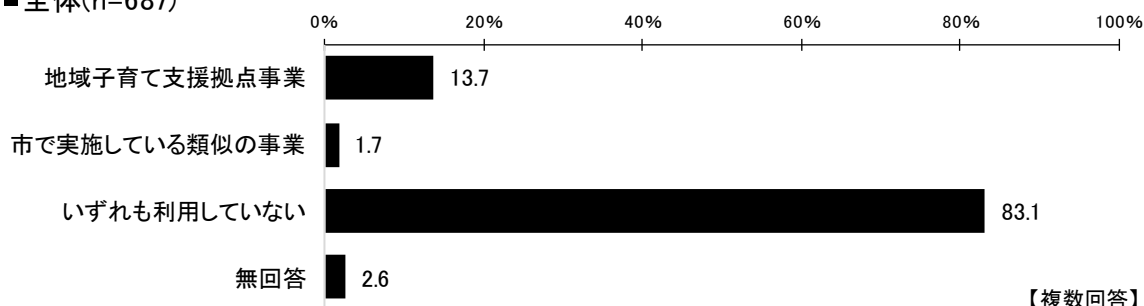


5 地域子育て支援拠点（子育て支援センター等）事業の認知とニーズについて

◆地域子育て支援拠点事業を利用していないと回答した割合は83.1%

地域子育て支援拠点事業の利用状況／就学前

■全体(n=687)



【複数回答】

◆地域子育て支援拠点事業のサービスで『子どもの就学についての相談先』『子どもの発達や発育の相談先』『保護者の健康や心配ごとの相談先』などを知らない人の割合は半数以上

◆ほとんどの事業で「利用したことがない」の割合が「利用したことがある」の割合を上回る

◆利用希望者は、すべての事業で3割前後

◆ほとんどの事業で利用者の7割は満足している

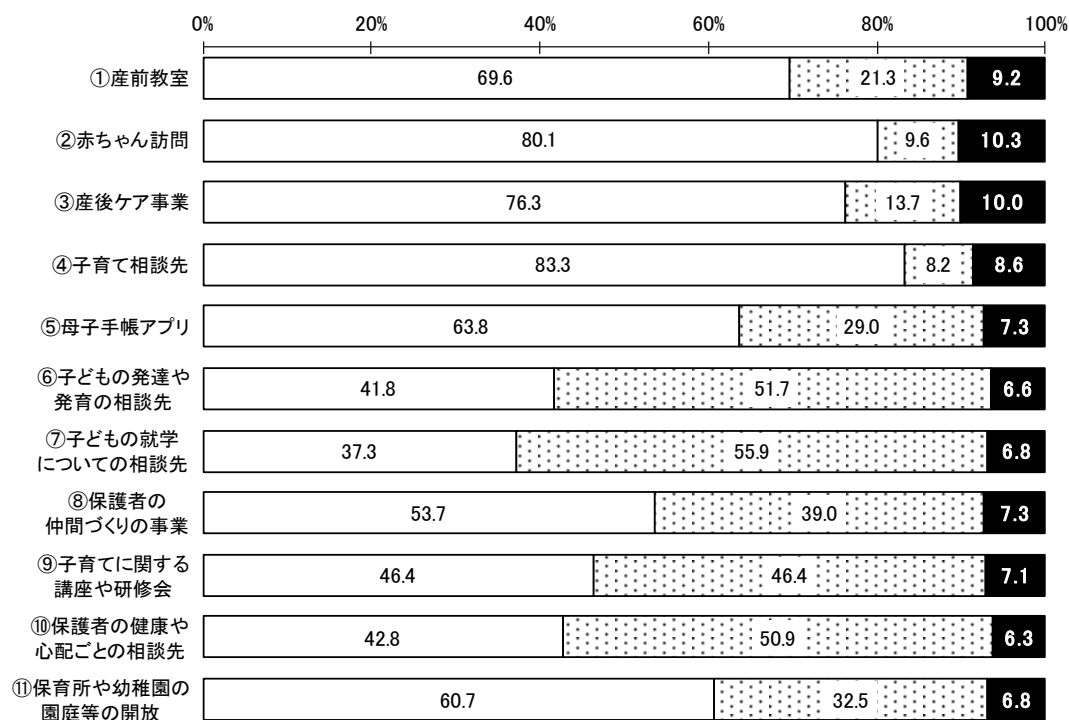
A 地域子育て支援拠点事業のサービスの認知／就学前

全体(n=687)

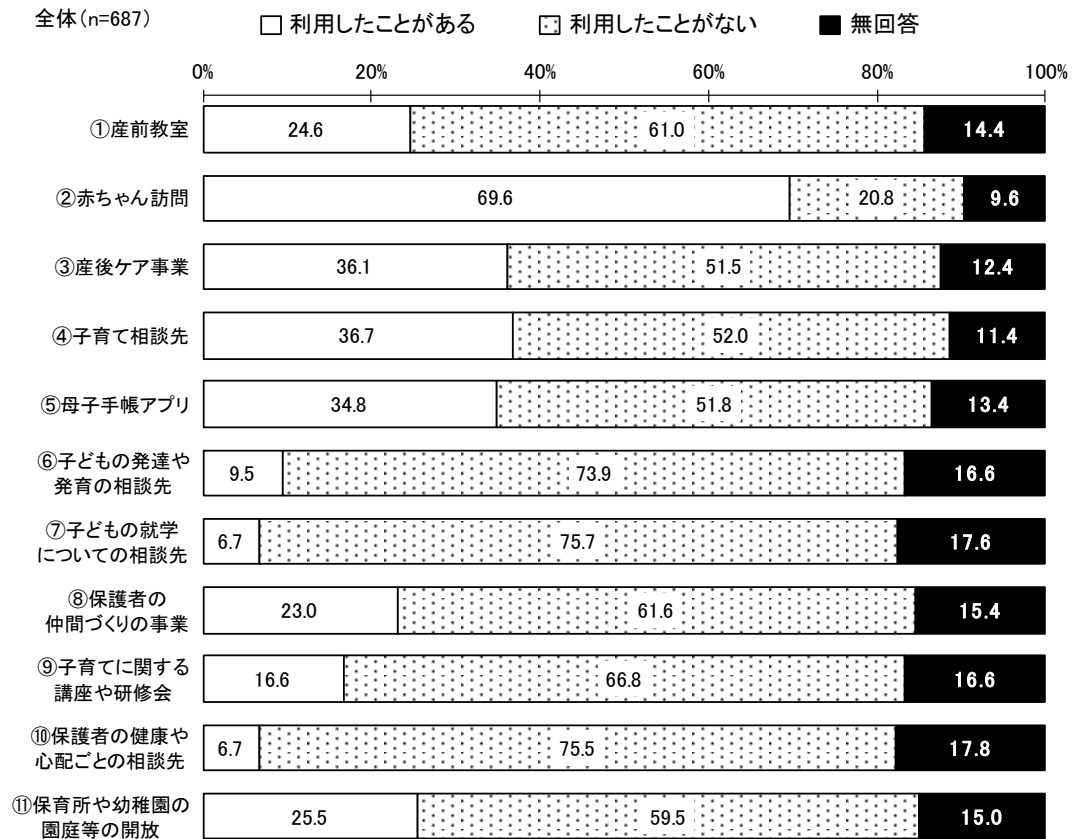
□ 知っている

▨ 知らない

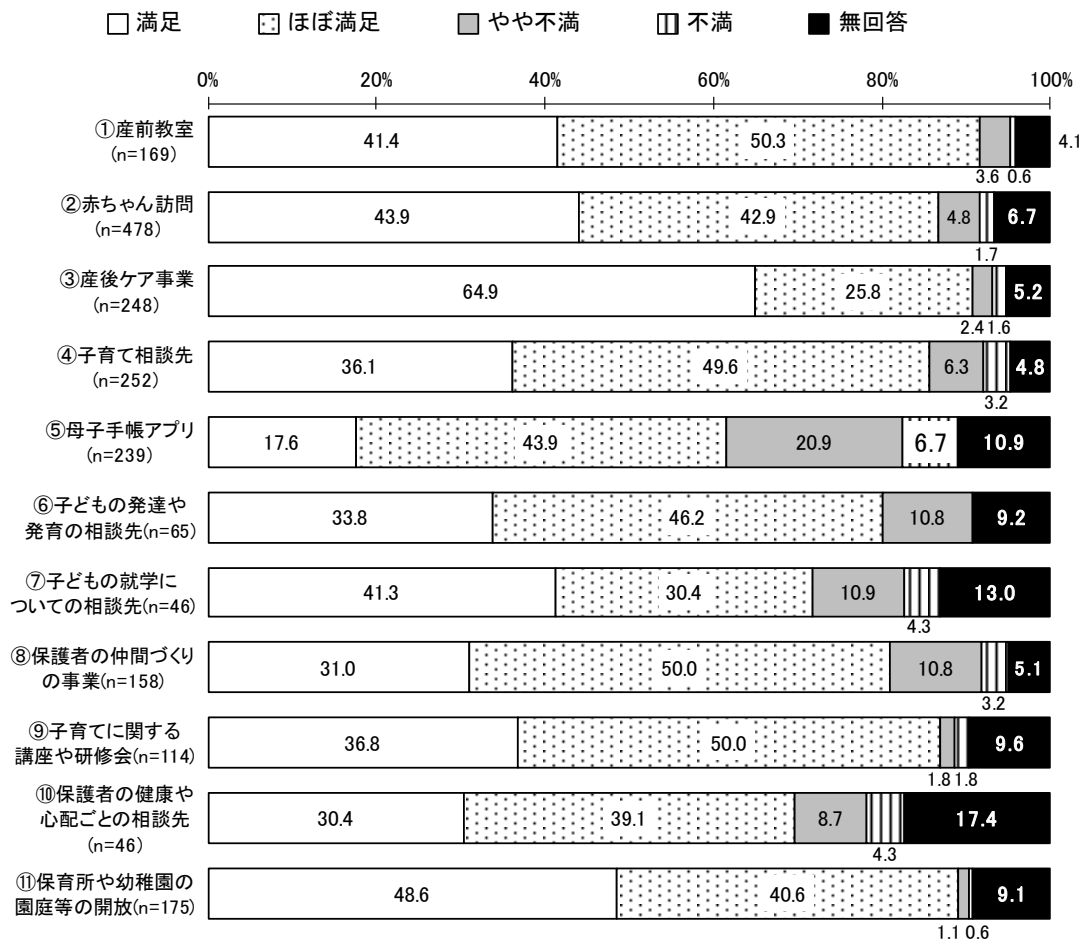
■ 無回答



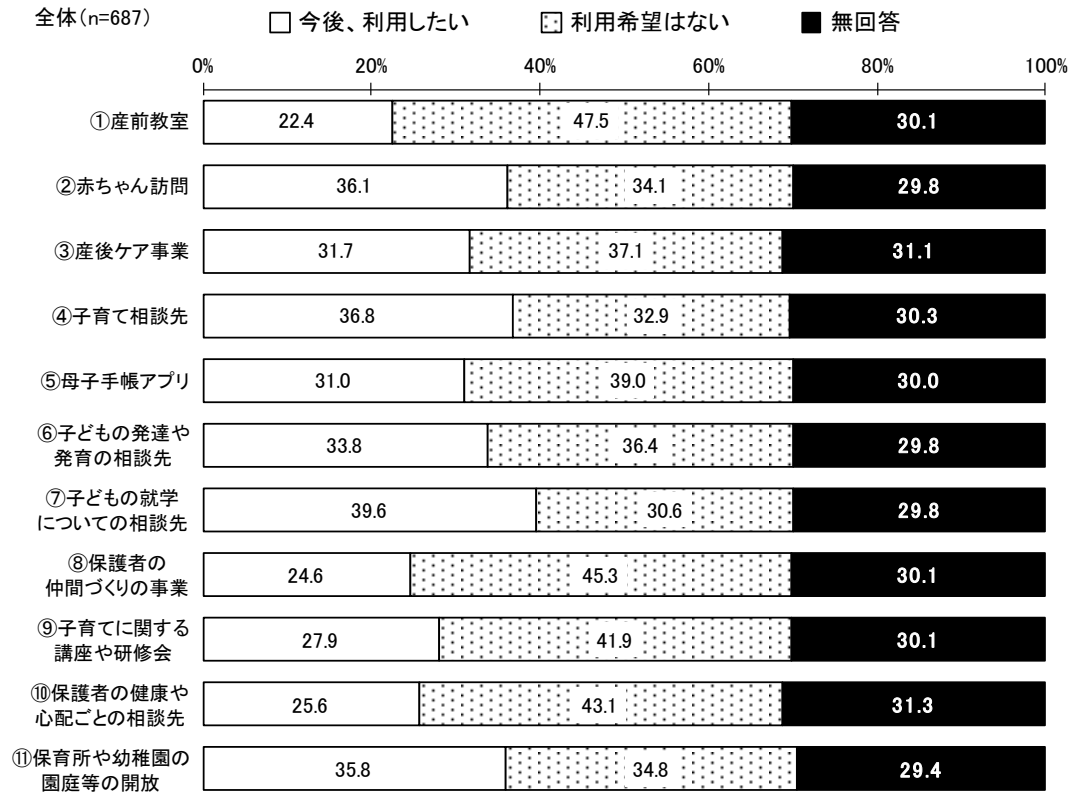
B 地域子育て支援拠点事業のサービスの利用状況／就学前



B-1 地域子育て支援拠点事業のサービスの満足度／就学前

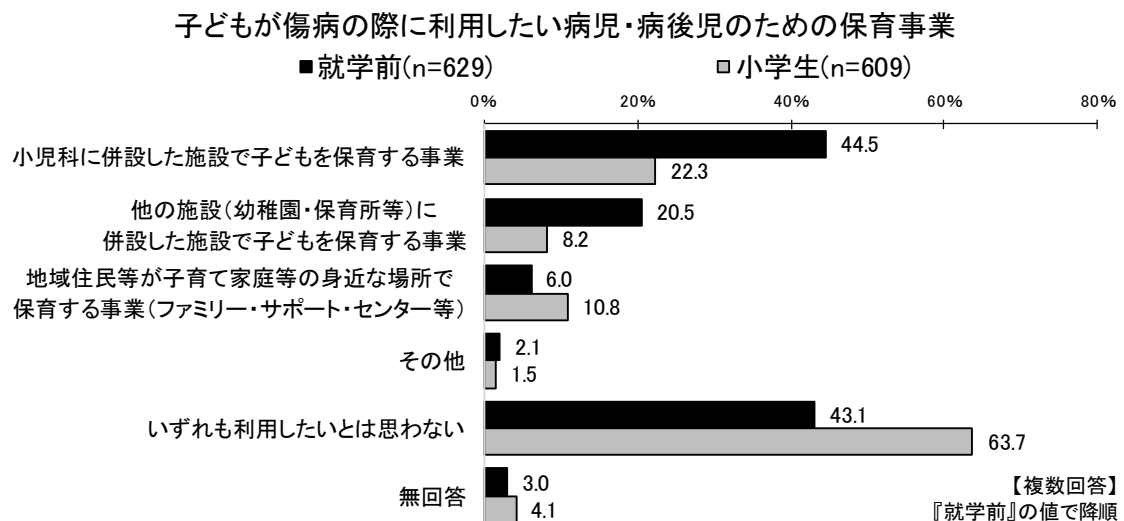


C 地域子育て支援拠点事業のサービスの今後の利用希望／就学前



6 子どもの病気やけがの際の対応について

◆就学前の子どもの年齢0～2歳では「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」を希望する割合が最も高く、小学生の全体でも22.3%と他の事業よりも高い



子どもが傷病の際に利用したい病児・病後児のための保育事業／就学前【子どもの年齢別】

(単位：％)

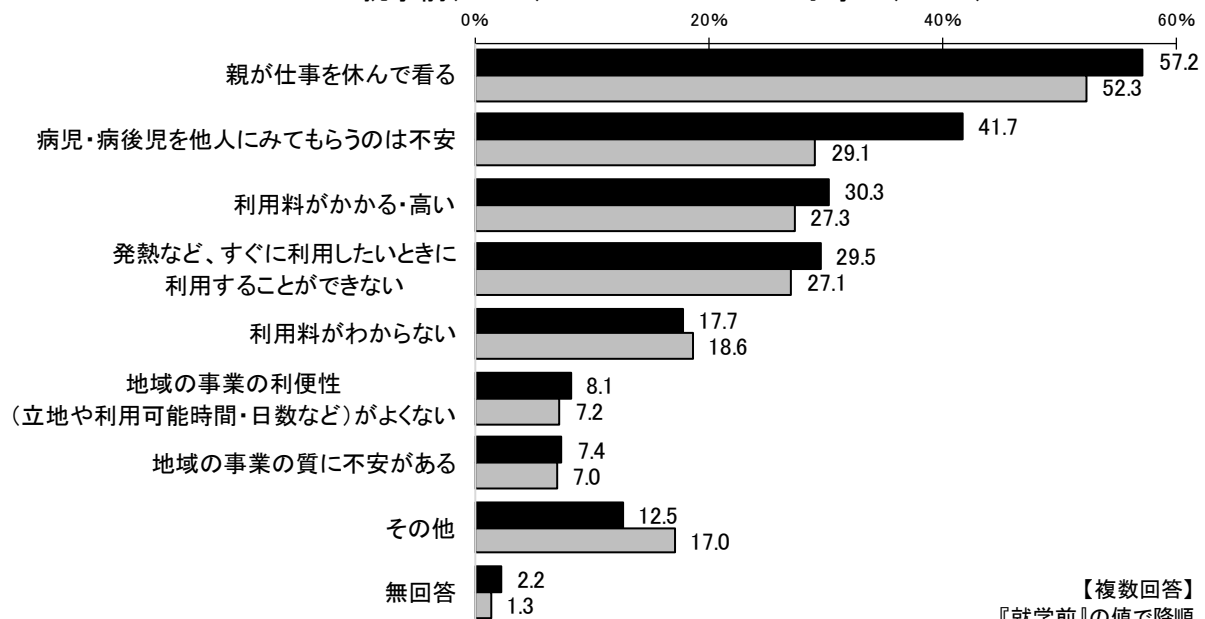
	全体(n)	他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業	小児科に併設した施設で子どもを保育する事業	地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センター等）	その他	いずれも利用したいとは思わない	無回答
全体	629	20.5	44.5	6.0	2.1	43.1	3.0
0歳	27	18.5	44.4	7.4	0.0	29.6	14.8
1歳	92	26.1	48.9	8.7	3.3	39.1	1.1
2歳	100	26.0	50.0	3.0	2.0	37.0	5.0
3歳	120	19.2	41.7	6.7	1.7	46.7	2.5
4歳	107	21.5	43.9	6.5	2.8	44.9	0.9
5～6歳	139	14.4	36.7	5.0	2.2	50.4	2.9

◆病児・病後児のための保育施設の利用を希望しない人の理由は「親が仕事を休んで見る」「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」「利用料がかかる・高い」などが上位

病児・病後児のための保育施設を利用したいと思わない理由

■就学前(n=271)

□小学生(n=388)



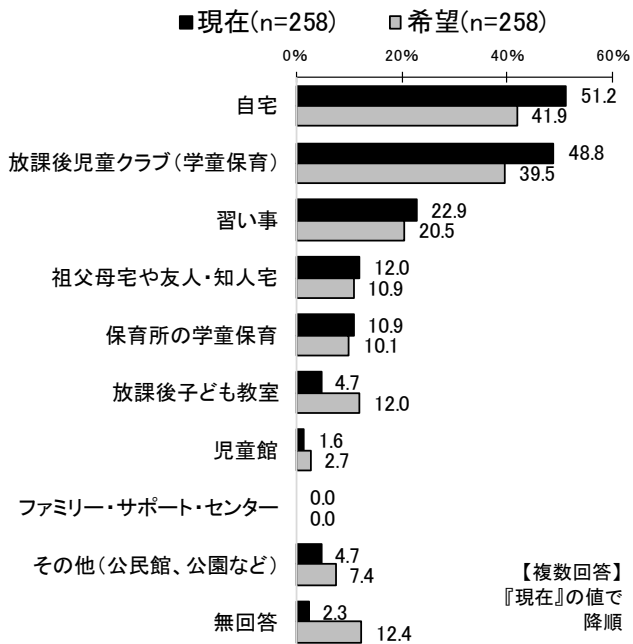
7 放課後児童クラブ（学童保育）の利用について

◆1～3年生では39.5%が、平日は放課後児童クラブで子どもを過ごさせたいと回答し、現在実際に利用している割合は48.8%

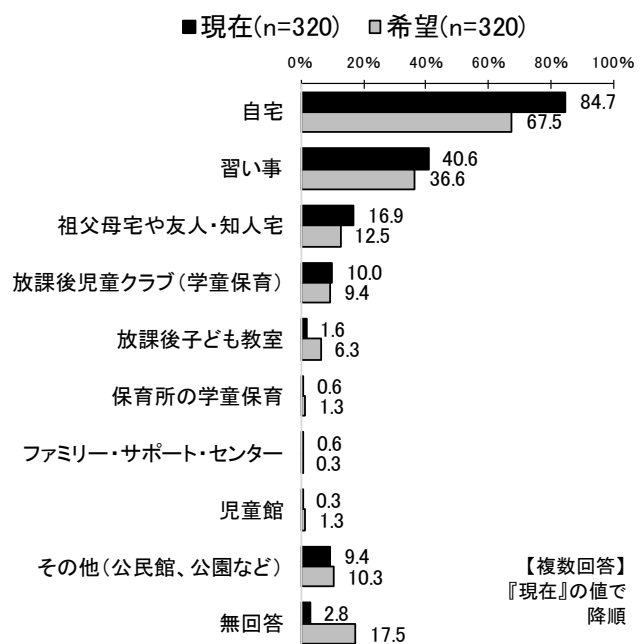
◆長期の休暇期間中利用を希望する割合が1～3年生では62.3%、4～6年生では30.5%

平日の放課後を過ごす場所／小学生

【1～3年生】

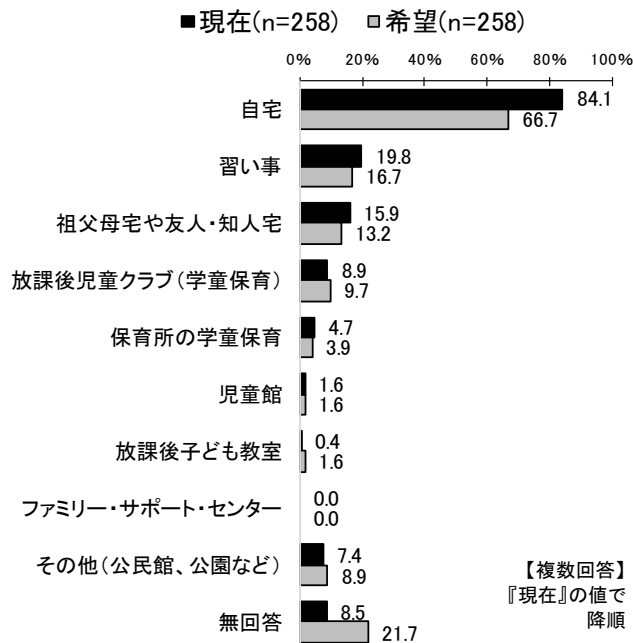


【4～6年生】

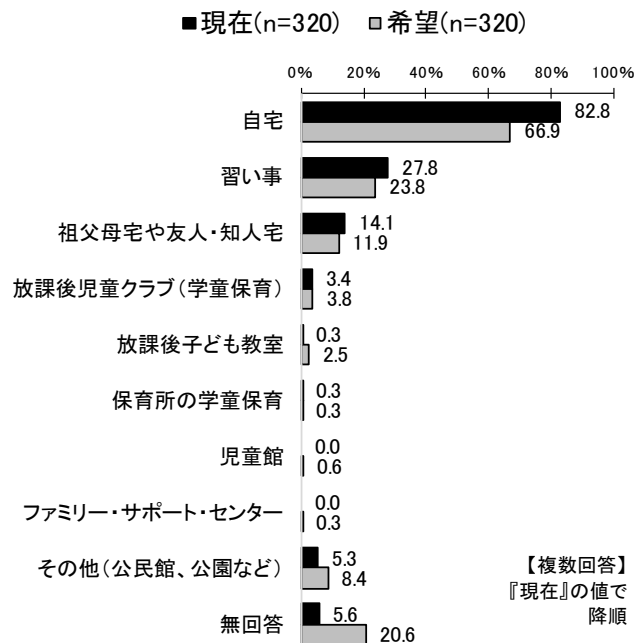


休日を過ごす場所／小学生

【1～3年生】

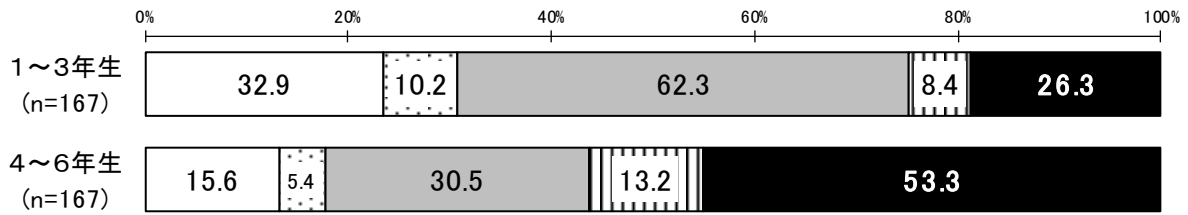


【4～6年生】



休日の学童保育の利用希望／小学生

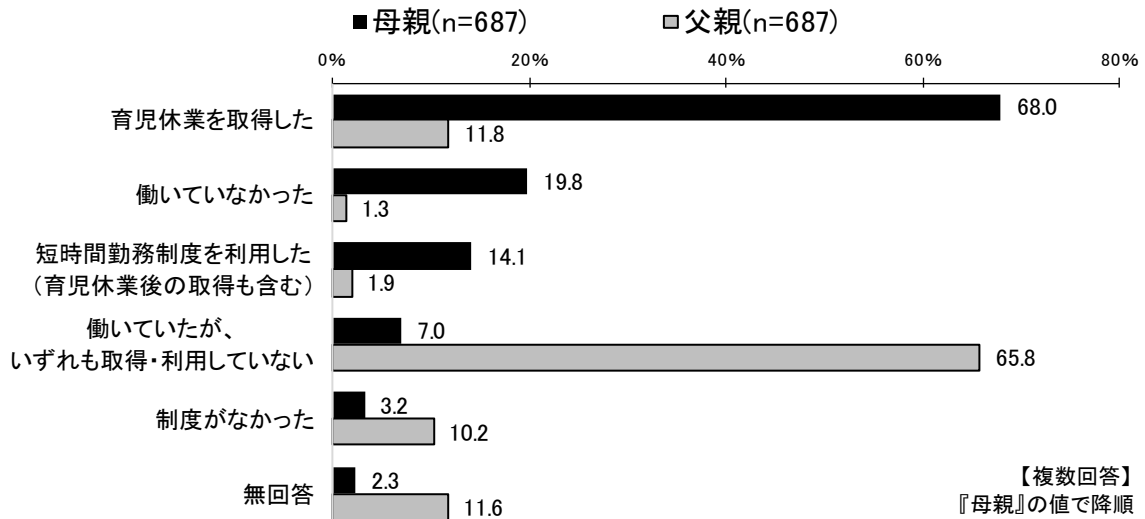
□ 土曜日 ▨ 日曜・祝日 ■ 長期の休暇期間中 ▤ 利用意向はない ■ 無回答



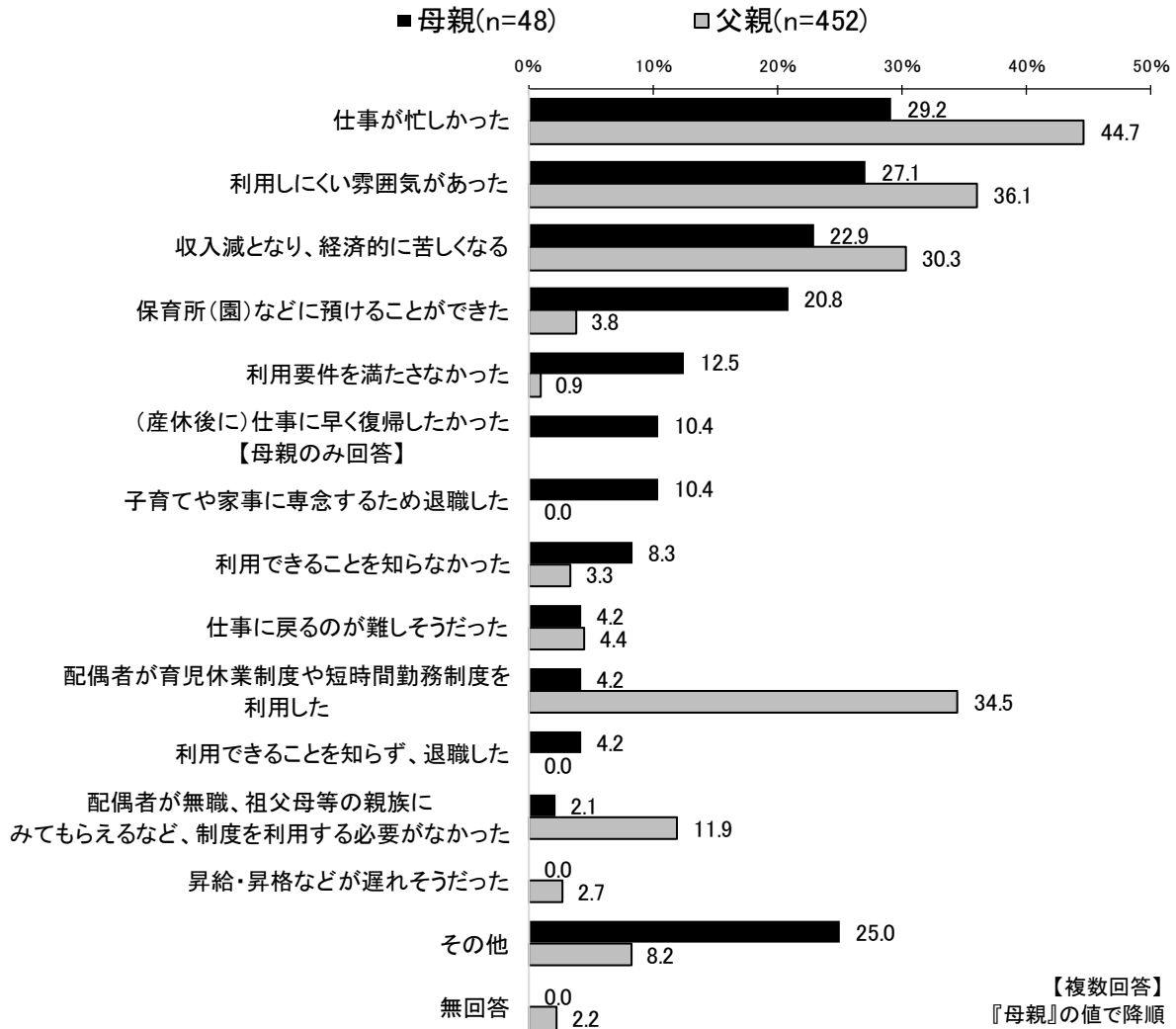
8 職場の両立支援制度について

- ◆ 育児休業を取得した割合は、母親で68.0%、父親で11.8%
- ◆ 育児休業を取得していない割合は母親では7.0%、父親で65.8%
- ◆ 育児休業を取得していない理由は「仕事が忙しかった」「利用しにくい雰囲気があった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」などで、父親では「配偶者が育児休業制度を利用した」も上位
- ◆ 育児休業給付・保険料免除についての認知度は、父親よりも母親の方が高い

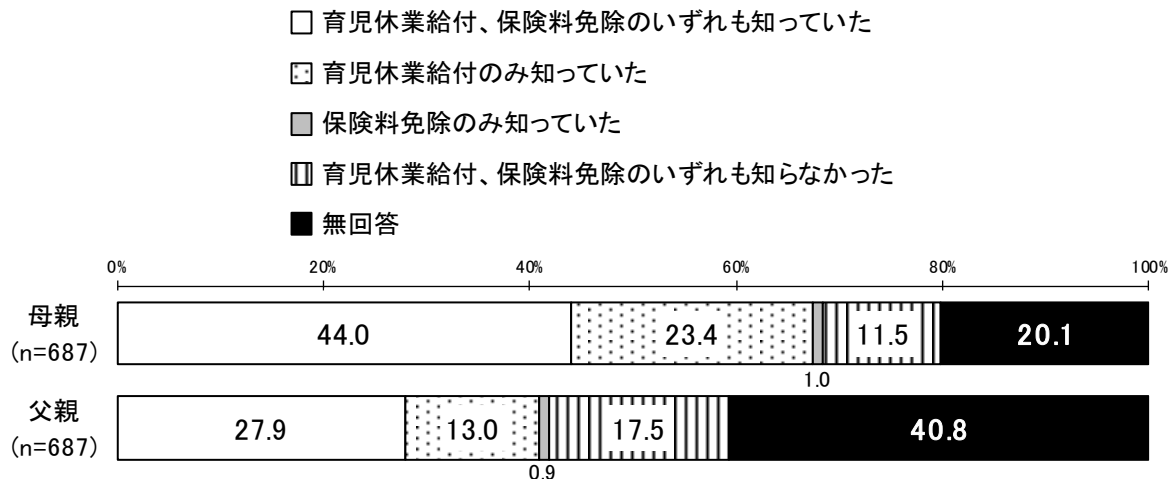
育児休業制度や短時間勤務制度の利用状況／就学前



育児休業制度や短時間勤務制度を利用しなかった理由／就学前



育児休業給付(※1)、保険料免除(※2)についての認知／就学前

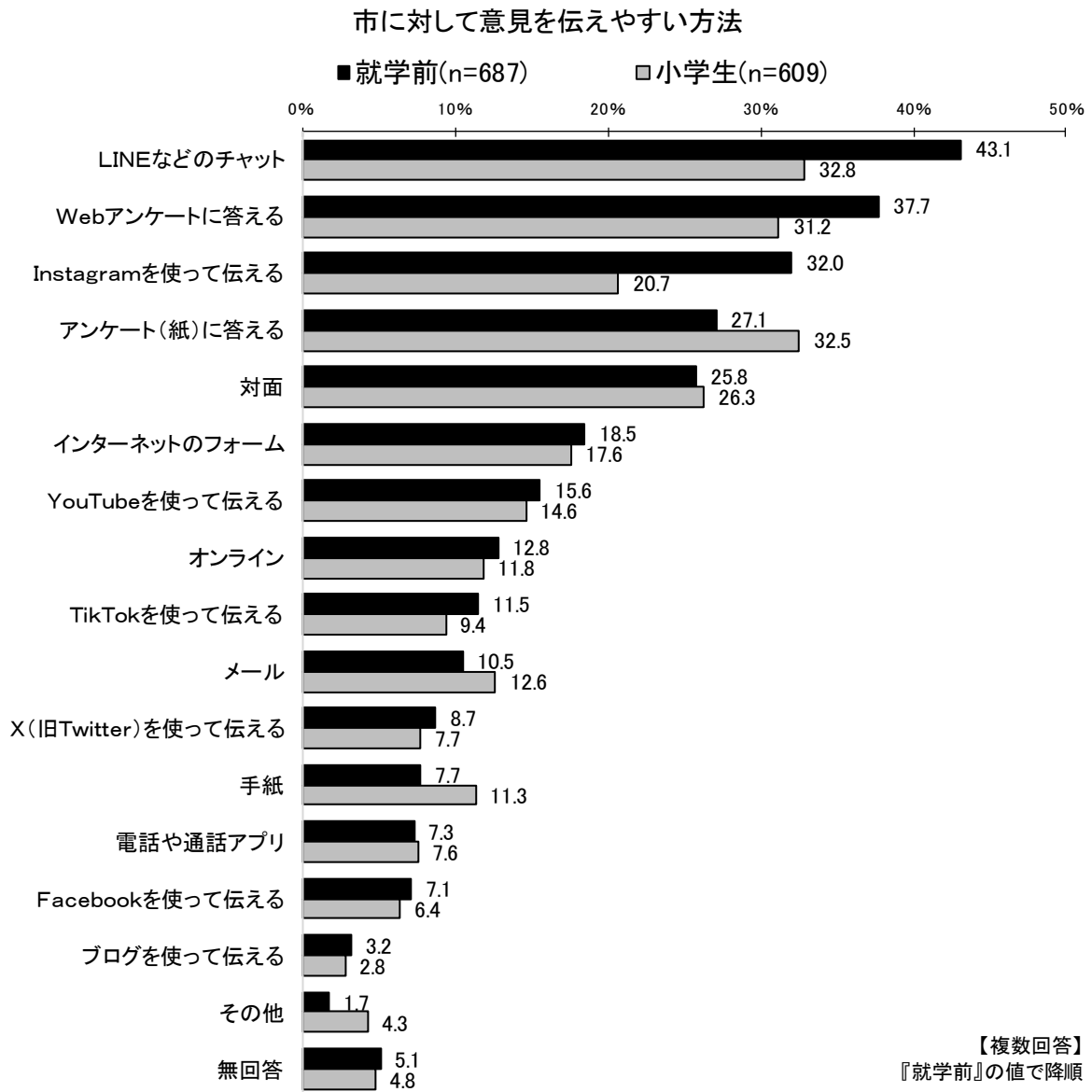


※1 子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み(一定の要件を満たす場合は1歳6か月)

※2 子どもが満3歳になるまでの育児休業等の期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組み

9 子どもや若者の意見反映について

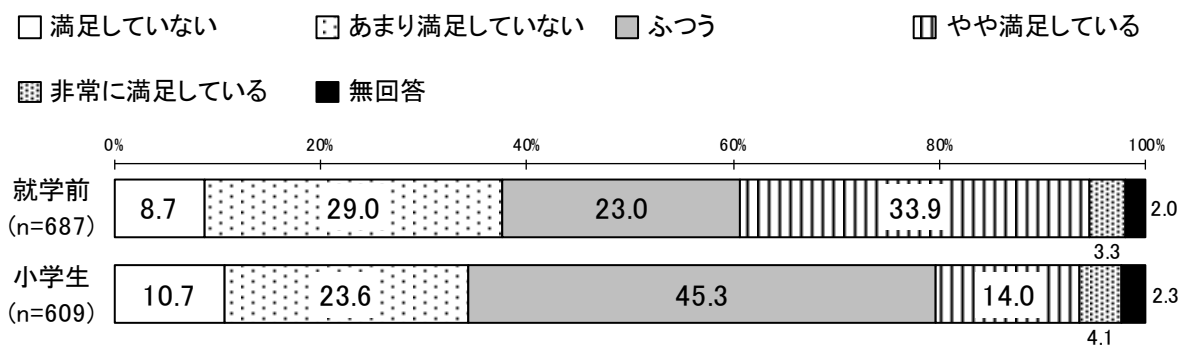
- ◆市に対して意見を伝えやすい方法は「LINEなどのチャット」の割合が最も高い
- ◆「Webアンケートに答える」「アンケート(紙)に答える」「Instagramを使って伝える」「対面」などが上位



10 子育て環境や支援への満足度について

◆子育ての環境や支援への満足度は、就学前では“満足”(「やや満足している」と「非常に満足している」の合計。以下同じ)37.2%、“不満”(「満足していない」と「あまり満足していない」の合計。以下同じ)37.7%、小学生では“満足”18.1%、“不満”34.3%

子育て環境や支援への満足度

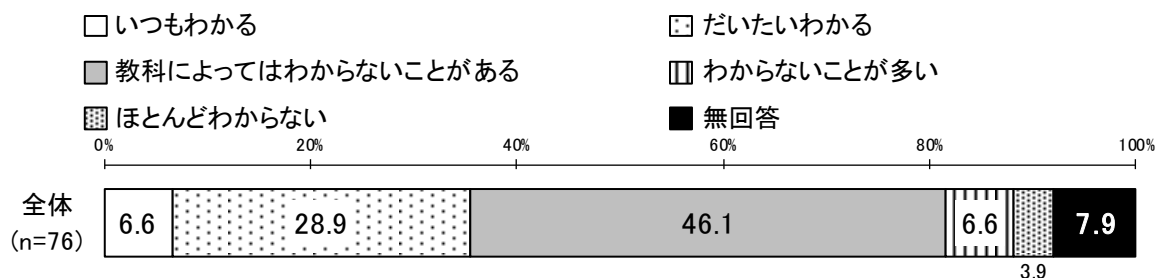


Ⅲ. 子どもの生活状況調査結果

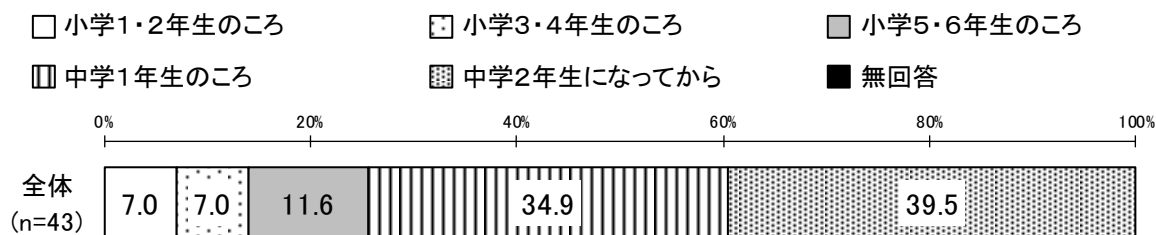
1 子どもの勉強と進学について

- ◆半数以上の生徒が授業で何かしらわからないことがあると回答
- ◆7割以上が『中学生になってから授業でわからないことが出てきた』と回答
- ◆子ども・保護者ともに4割以上が大学進学までを希望している
- ◆子どもの進学先の理由については6割以上の保護者が子どもの意志を最優先している

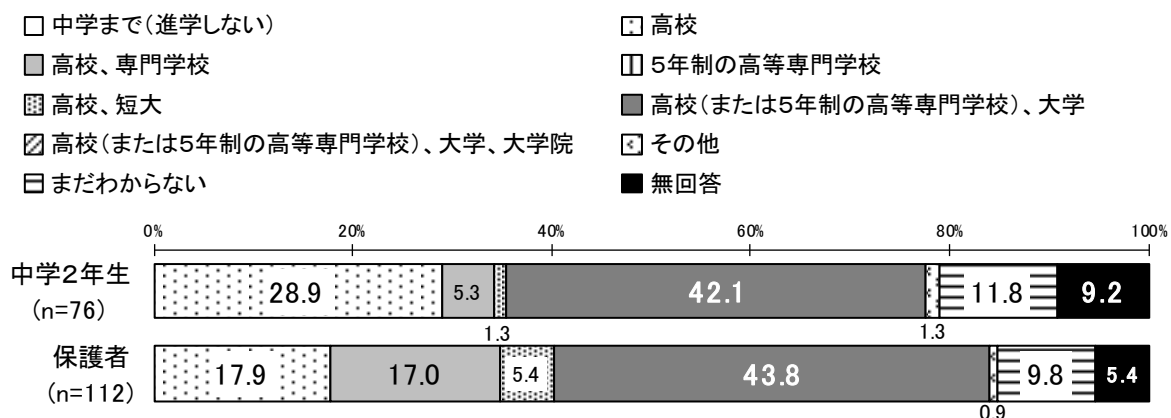
学校の授業がわからないことがあるか／中学2年生



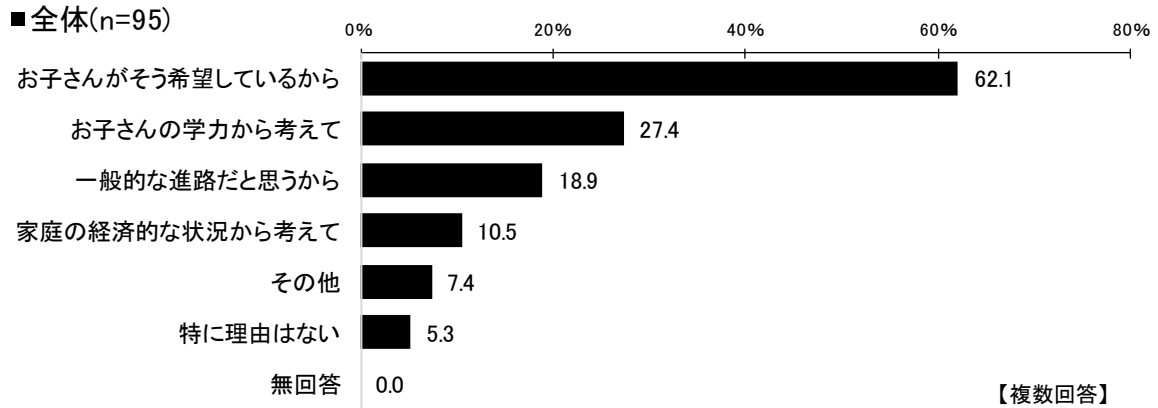
いつごろから授業がわからないことがあるか／中学2年生



将来の進学について



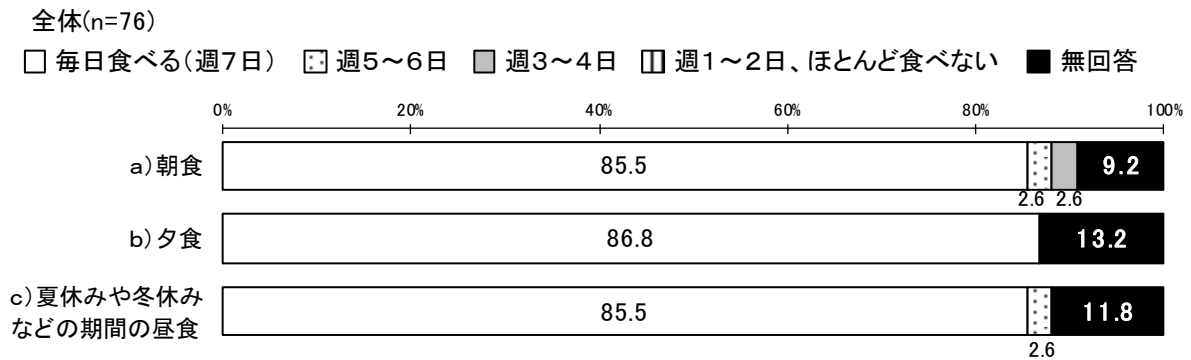
子どもの進学先の理由／保護者



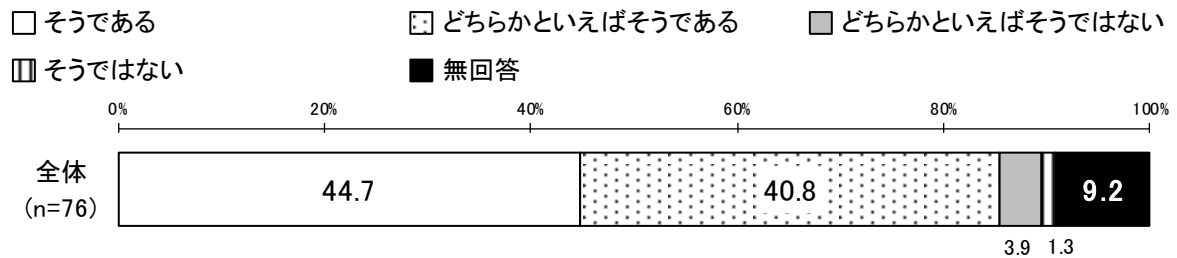
2 子どもの食事と睡眠状況について

- ◆ 中学2年生の1週間の食事の頻度については「毎日食べる(週7日)」と回答した割合が8割以上
- ◆ 8割以上が平日ほぼ同じ時間に寝ていると回答
- ◆ テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めていると回答した割合は半数以上

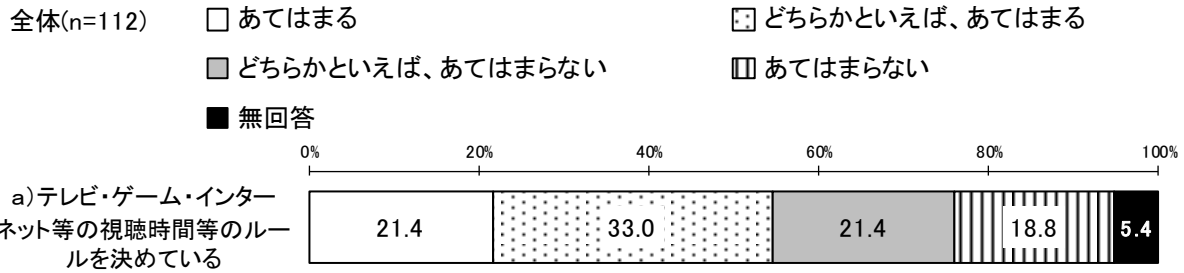
1週間の食事の頻度／中学2年生



平日(月～金)ほぼ同じ時間に寝ているか／中学2年生



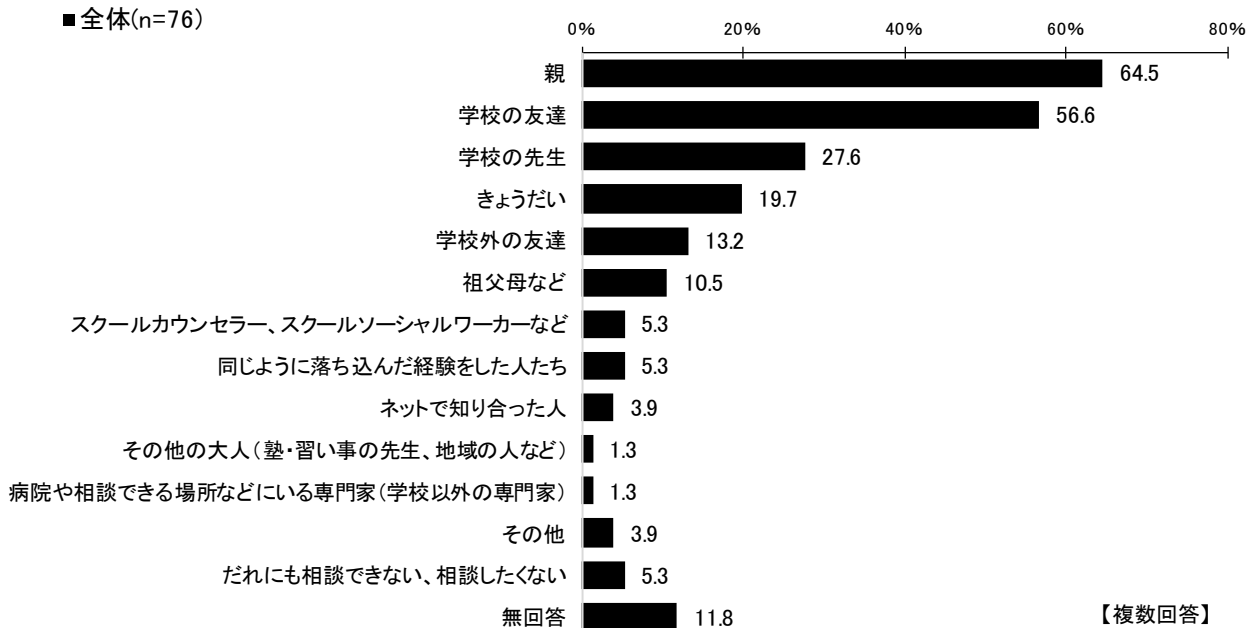
テレビ・ゲーム・インターネット等の利用ルールを決めているか／保護者



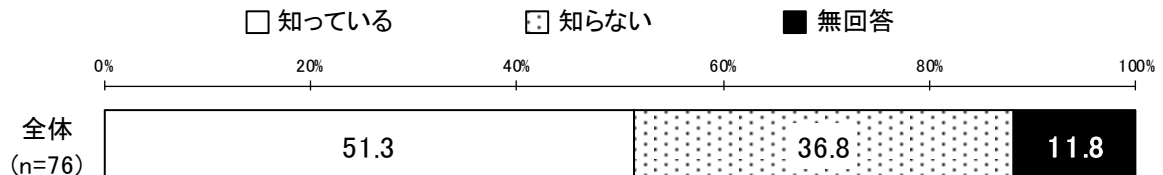
3 子どもの悩みごとや相談先について

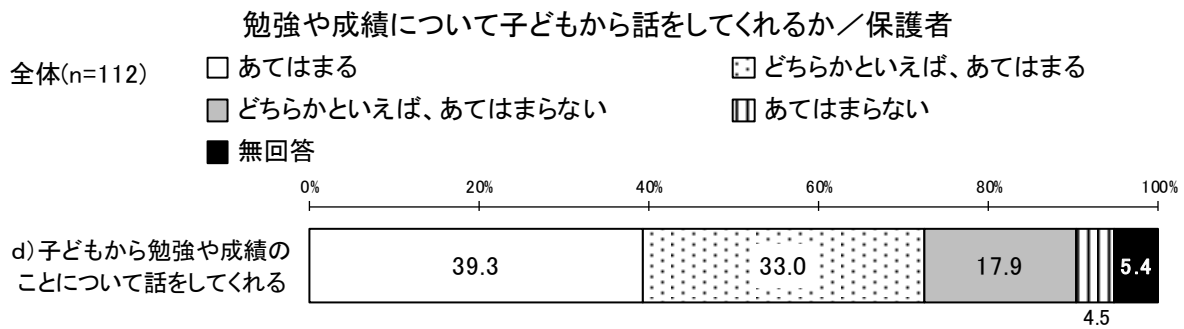
- ◆ 中学2年生の悩みごとの相談相手については、6割以上が親に相談すると回答
- ◆ 3割以上の中学2年生が家庭や学校以外で悩みごとを相談できる場所があることを知らないと回答
- ◆ 勉強や成績のことについて子どもから話をしてくれると回答した保護者は7割以上

相談相手／中学2年生



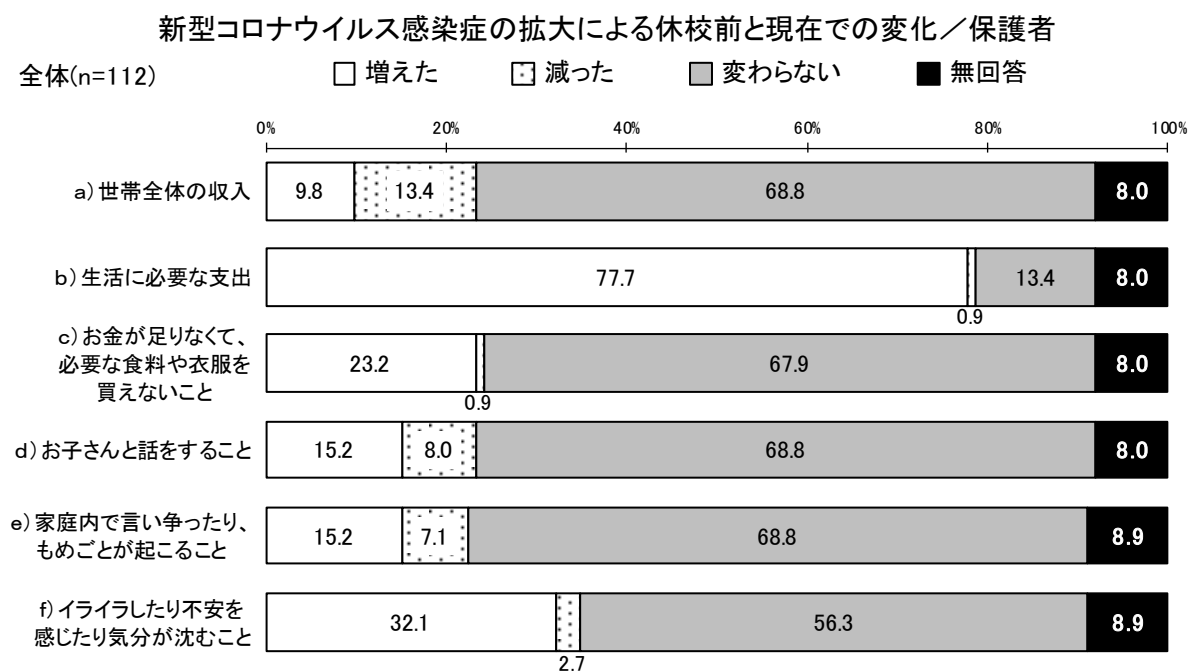
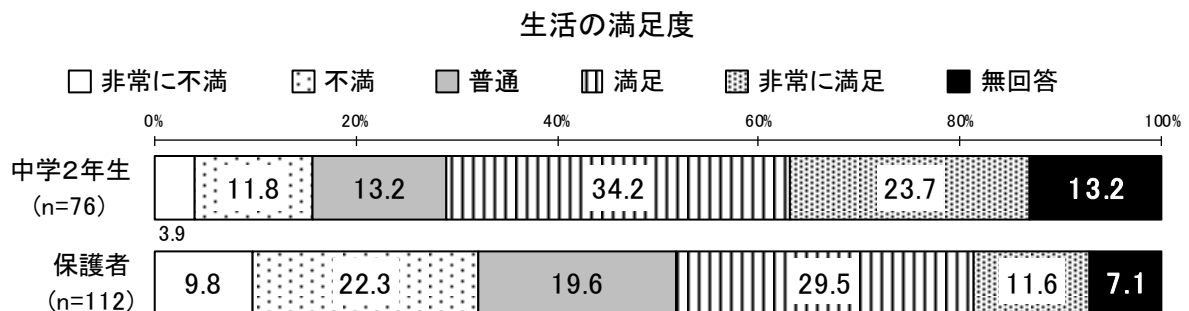
家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているか／中学2年生





4 最近の生活について

- ◆生活の満足度は、“満足”の割合が中学2年生57.9%、保護者41.1%。一方、“不満”の割合は中学2年生15.7%、保護者32.1%
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前に比べて『生活に必要な支出』で「増えた」と回答している保護者の割合が7割以上を占める一方、『世帯全体の収入』が「減った」と回答した人の割合は13.4%
- ◆中学2年生の回答では、ここ半年くらいの自分のことについては、周囲に対して思いやりをもって接することができたとする人が多い
- ◆保護者の半数以上が『何をするのも面倒だと感じた』『神経過敏に感じた』『気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた』と感じたことがあると回答



ここ半年くらいの自分のことについて／中学2年生

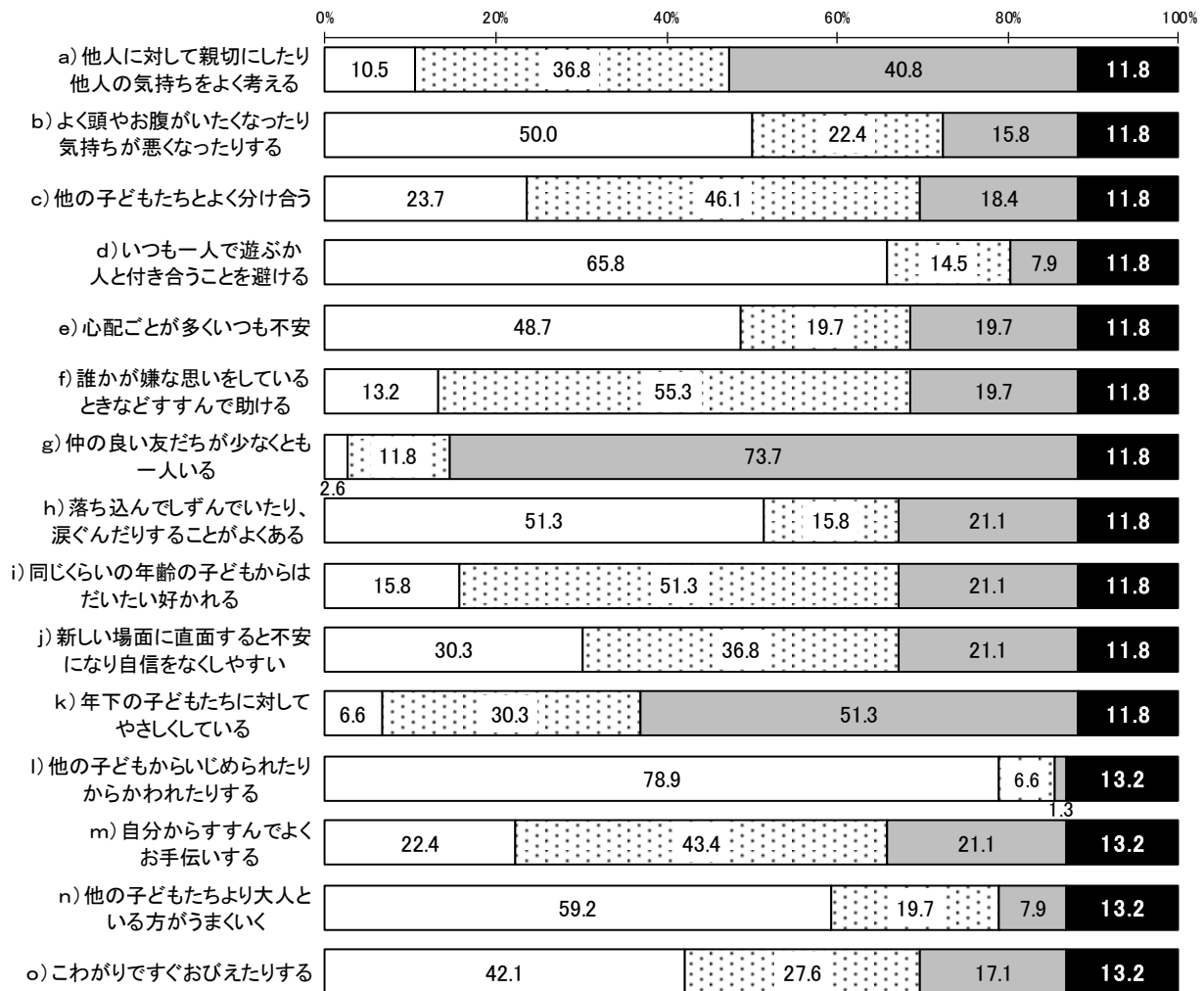
全体(n=76)

□ あてはまらない

▨ まああてはまる

■ あてはまる

■ 無回答



過去1か月間の気持ち／保護者

全体(n=112)

□ いつも

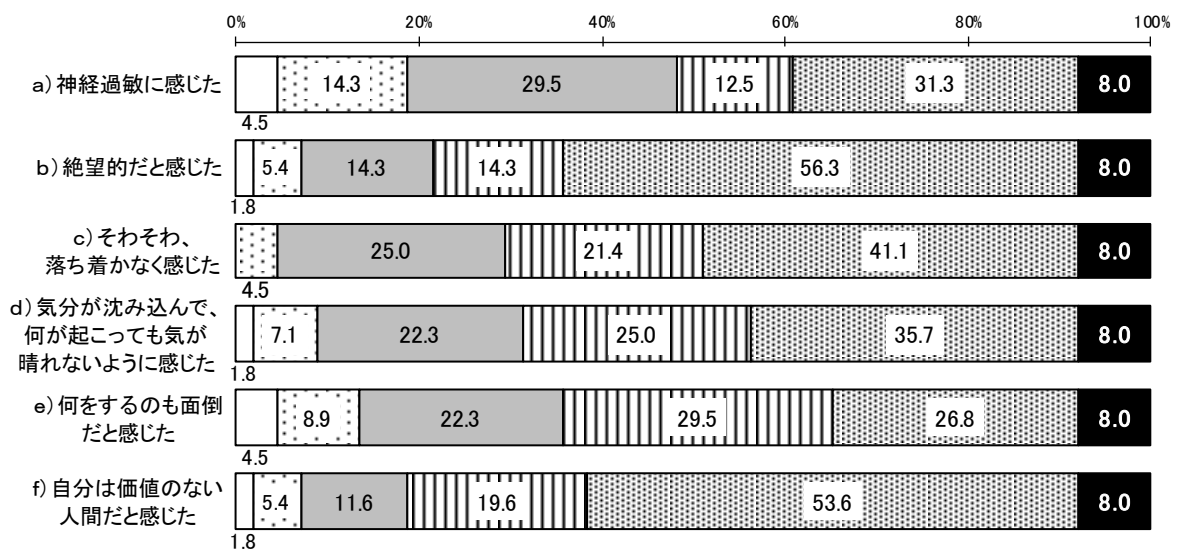
▨ たいてい

■ ときどき

▨ 少しだけ

▨ まったくない

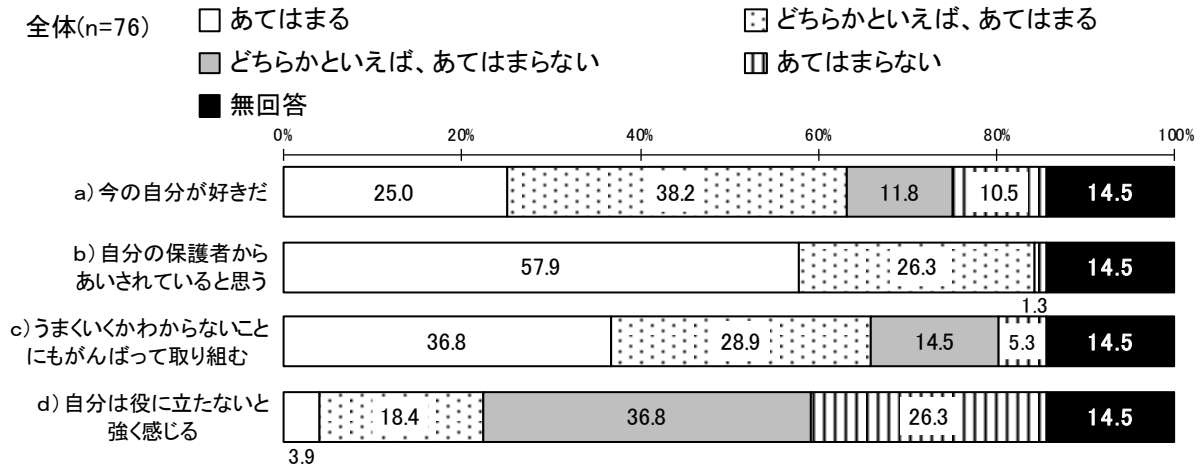
■ 無回答



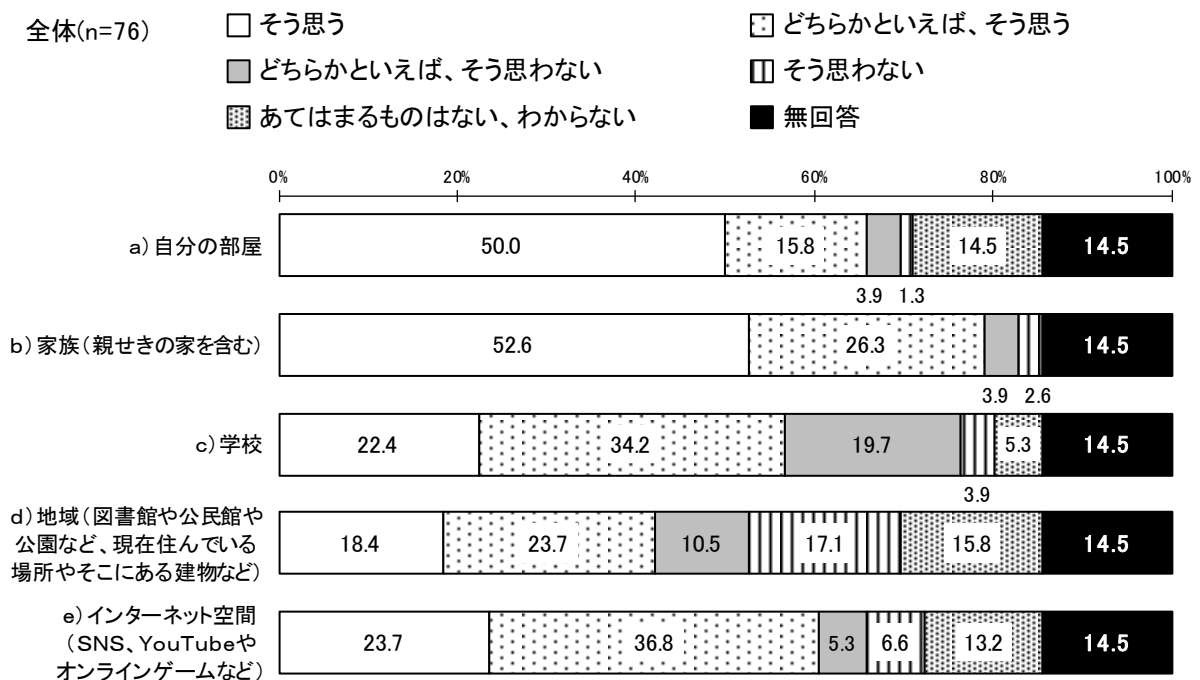
5 子どもの居場所について

- ◆『自分の保護者からあいされていると思う』と回答した中学2年生が8割以上で、多くの子どもが親子関係を肯定的にとらえている
- ◆『家族(親せきの家を含む)』を居場所だとする中学2年生が8割弱に上り、家族との関係性が良好とする人が多い結果となった

回答者の自己肯定感について／中学2年生



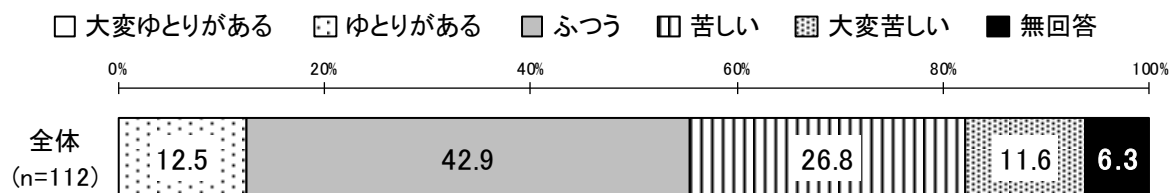
回答者にとっての居場所／中学2年生



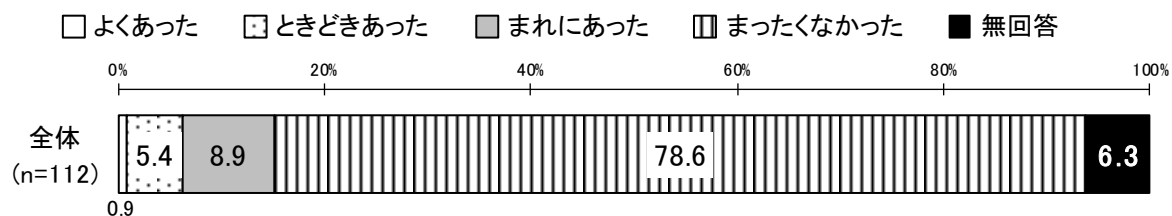
6 現在の暮らしの経済的状況について

- ◆現在の暮らしは金銭的に苦しいと回答した割合が38.4%
- ◆過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあった家庭は15.2%
- ◆過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあった家庭は23.2%

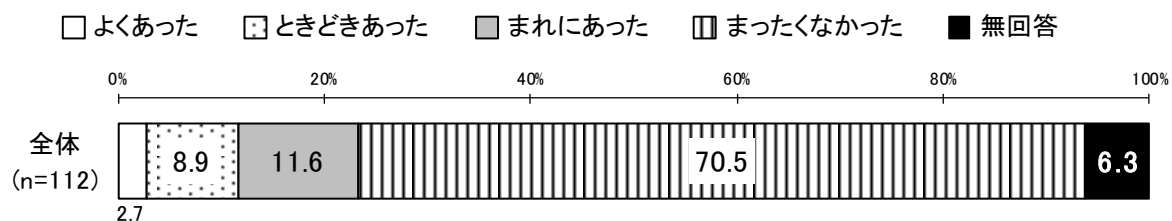
現在の暮らしの金銭的なゆとり／保護者



過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったか／保護者

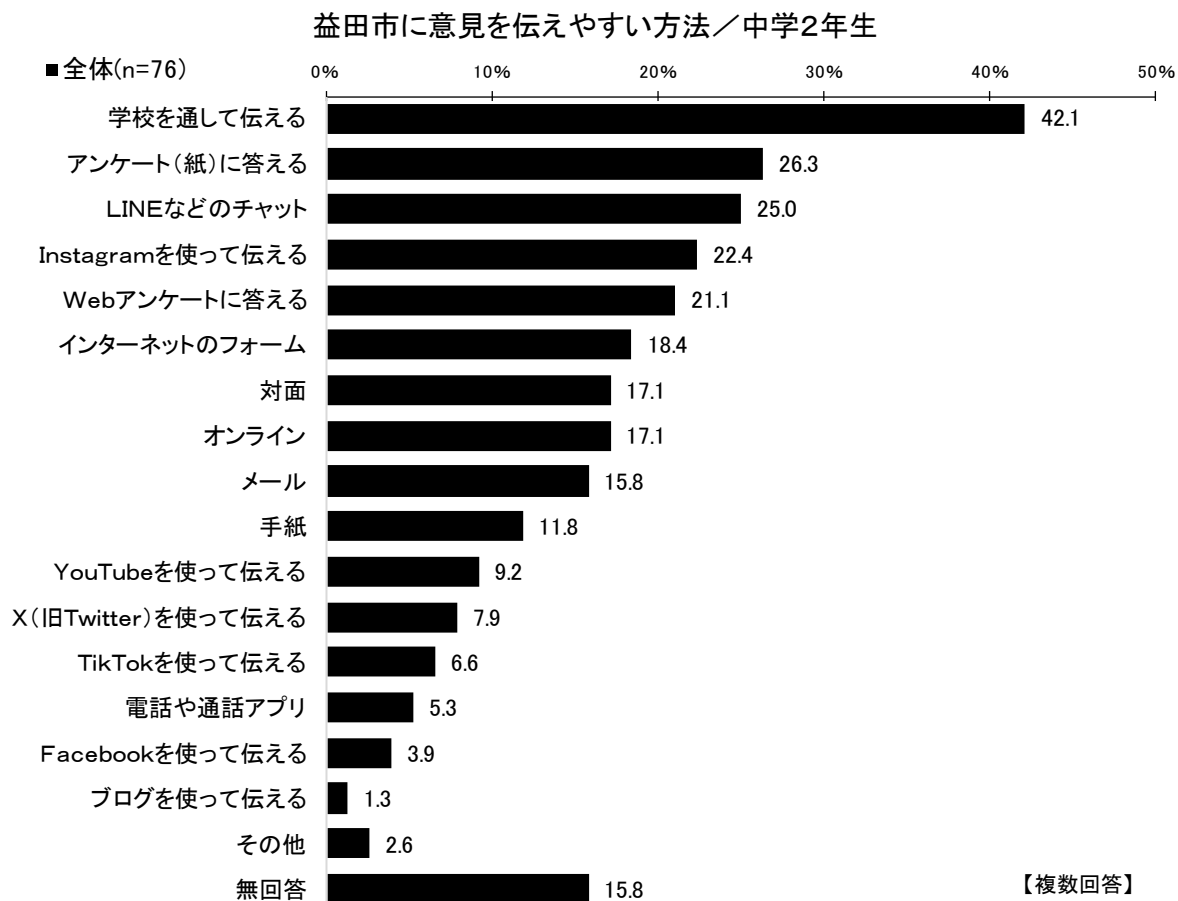


過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったか／保護者



7 益田市へ伝えたいことについて

- ◆中学2年生が益田市に意見を伝えやすい方法の上位3項目は「学校を通して伝える」「アンケート(紙)に答える」「LINEなどのチャット」となっている
- ◆中学2年生が益田市へ実際に伝えたいことについて自由意見を求めたところ「まちづくり」「遊び場」「商業施設」「道路の整備」などの回答があった

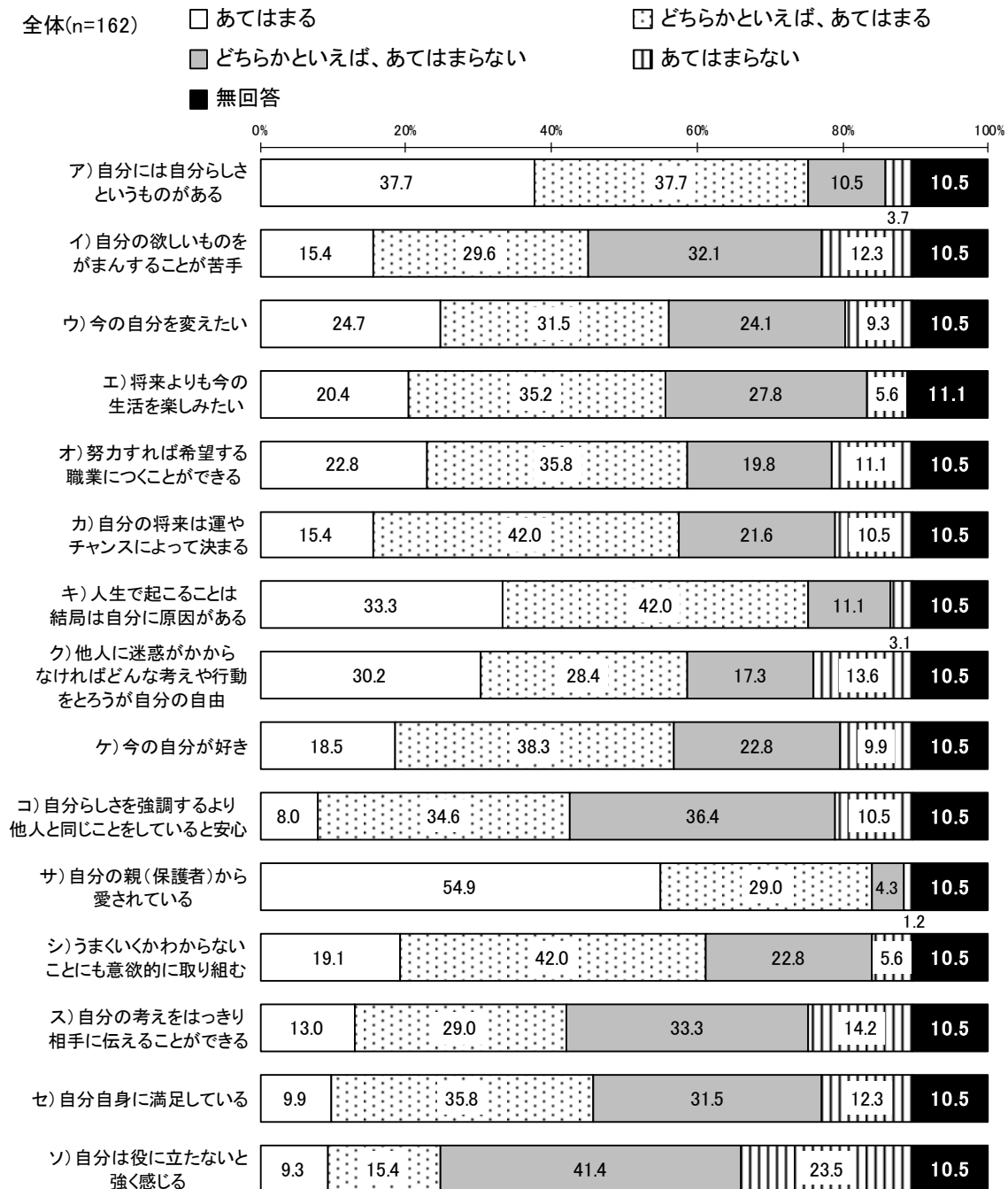


IV. こども・若者の意識と生活に関する調査

1 回答者自身について

- ◆『自分の親(保護者)から愛されている』『自分には自分らしさというものがある』『人生で起こることは結局は自分に原因がある』などで肯定的な回答の割合が高くなっている
- ◆概ね年齢層が高くなるほど『努力すれば希望する職業につくことができる』と考えている人の割合が低くなり、自分が幸せだと感じている人ほど割合が高くなる
- ◆自分が幸せだと感じている人ほど今の自分が好きだと考えている

回答者自身について



回答者自身について／オ)努力すれば希望する職業につくことができる／年齢別、幸福度別

			(上段：n、下段：%)				
		対象者 (n)	あてはまる	どちらか といえ ば、あて はまる	どちらか といえ ば、あて はまらない	あてはま らない	無回答
全体		162	37 22.8	58 35.8	32 19.8	18 11.1	17 10.5
年 齢	16歳～19歳	25	12 48.0	7 28.0	3 12.0	0 0.0	3 12.0
	20歳～24歳	19	3 15.8	9 47.4	2 10.5	3 15.8	2 10.5
	25歳～29歳	25	3 12.0	9 36.0	7 28.0	3 12.0	3 12.0
	30歳～34歳	31	8 25.8	10 32.3	5 16.1	6 19.4	2 6.5
	35歳～39歳	61	11 18.0	23 37.7	15 24.6	6 9.8	6 9.8
だ 自 分 は 幸 せ う か	そう思う	52	20 38.5	19 36.5	9 17.3	4 7.7	0 0.0
	どちらかといえ ば、 そう思う	68	13 19.1	31 45.6	14 20.6	10 14.7	0 0.0
	どちらかといえ ば、 そう思わない	14	1 7.1	4 28.6	7 50.0	2 14.3	0 0.0
	そう思わない	5	1 20.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0

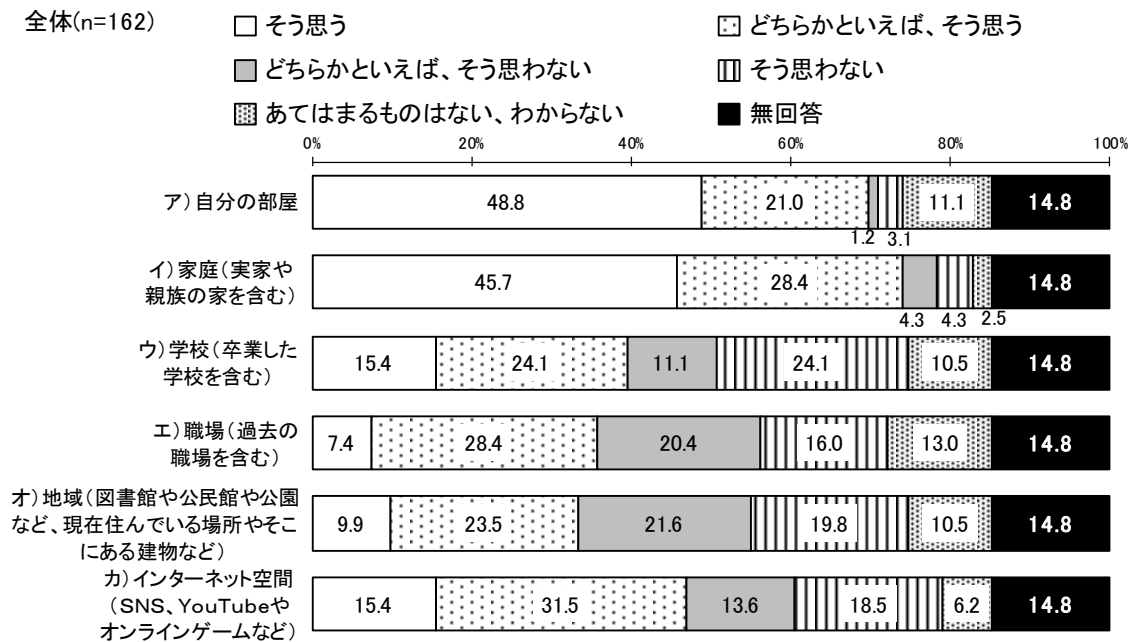
回答者自身について／ケ)今の自分が好きだ／幸福度別

			(上段：n、下段：%)				
		対象者 (n)	あてはまる	どちらか といえ ば、あて はまる	どちらか といえ ば、あて はまらない	あてはま らない	無回答
全体		162	30 18.5	62 38.3	37 22.8	16 9.9	17 10.5
だ 自分 と分は 思う幸 か	そう思う	52	24 46.2	19 36.5	8 15.4	1 1.9	0 0.0
	どちらかといえ ば、そう思う	68	4 5.9	35 51.5	20 29.4	9 13.2	0 0.0
	どちらかといえ ば、そう思わ ない	14	1 7.1	2 14.3	8 57.1	3 21.4	0 0.0
	そう思わ ない	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0

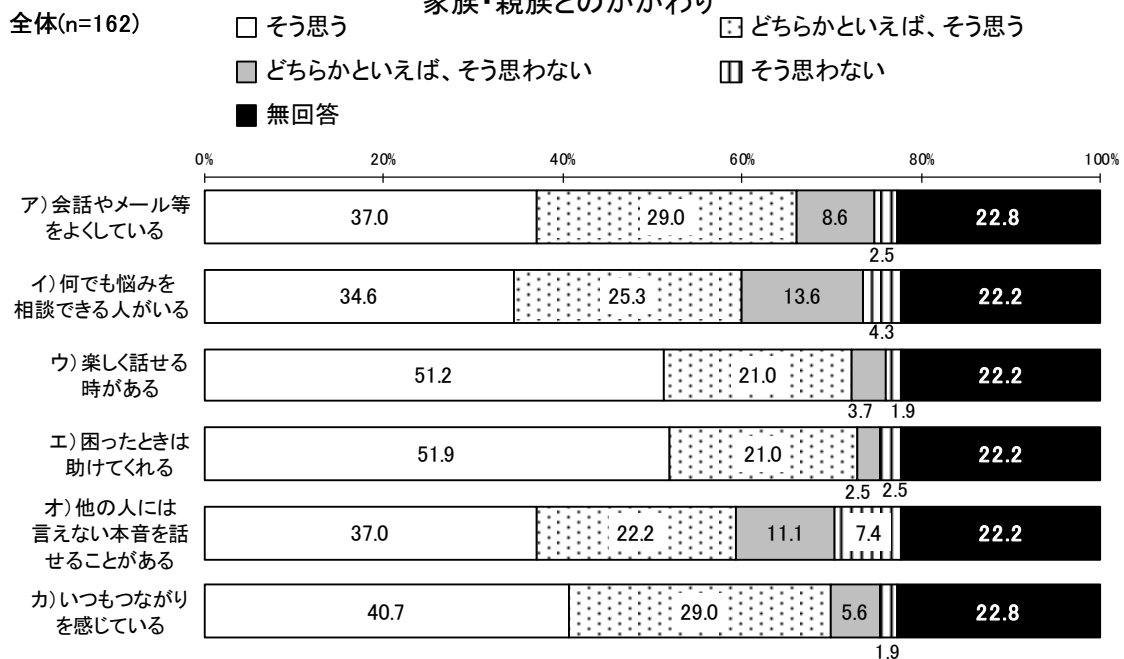
2 居場所や周囲とのかかわりについて

- ◆『家庭(実家や親族の家を含む)』『自分の部屋』『インターネット空間(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど)』などが自分の居場所だと回答する割合が高い
- ◆家族・親族とのかかわりについて『困ったときは助けてくれる』『楽しく話せる時がある』『いつもつながりを感じている』などで肯定的に回答している割合が6割以上
- ◆インターネット上における人とのかかわりはどの項目でも否定的な回答の割合が高い
- ◆地域の人とのかかわりは『他の人には言えない本音を話せることがある』『何でも悩みを相談できる人がいる』『会話やメール等をよくしている』などで否定的に回答している人の割合は6割以上

回答者にとっての居場所



家族・親族とのかかわり



インターネット上における人とのかかわり

全体(n=162)

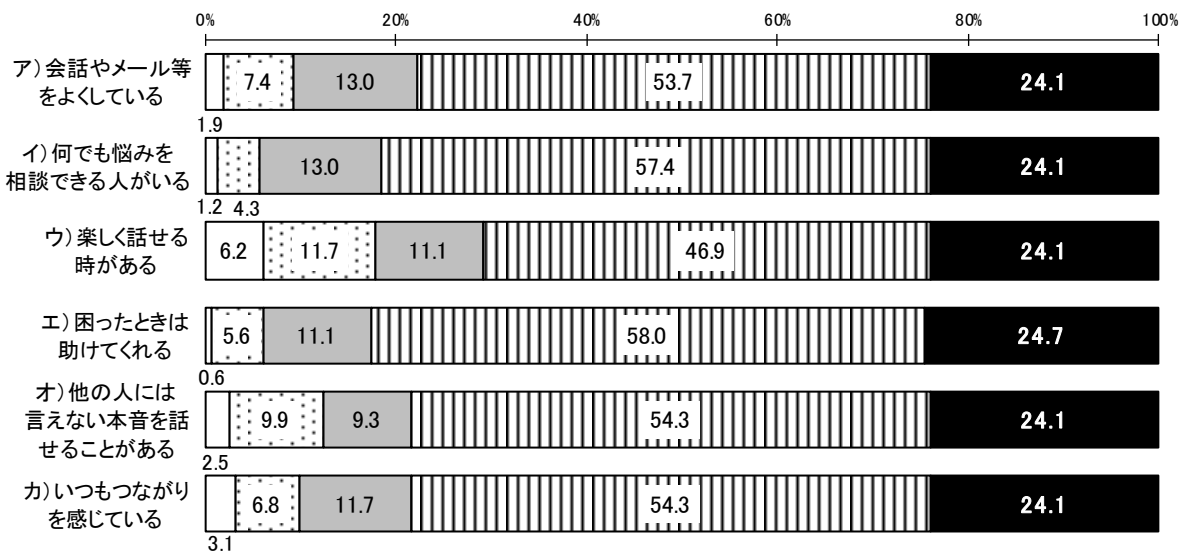
□ そう思う

▨ どちらかといえば、そう思う

■ どちらかといえば、そう思わない

▩ そう思わない

■ 無回答



地域の人とのかかわり

全体(n=162)

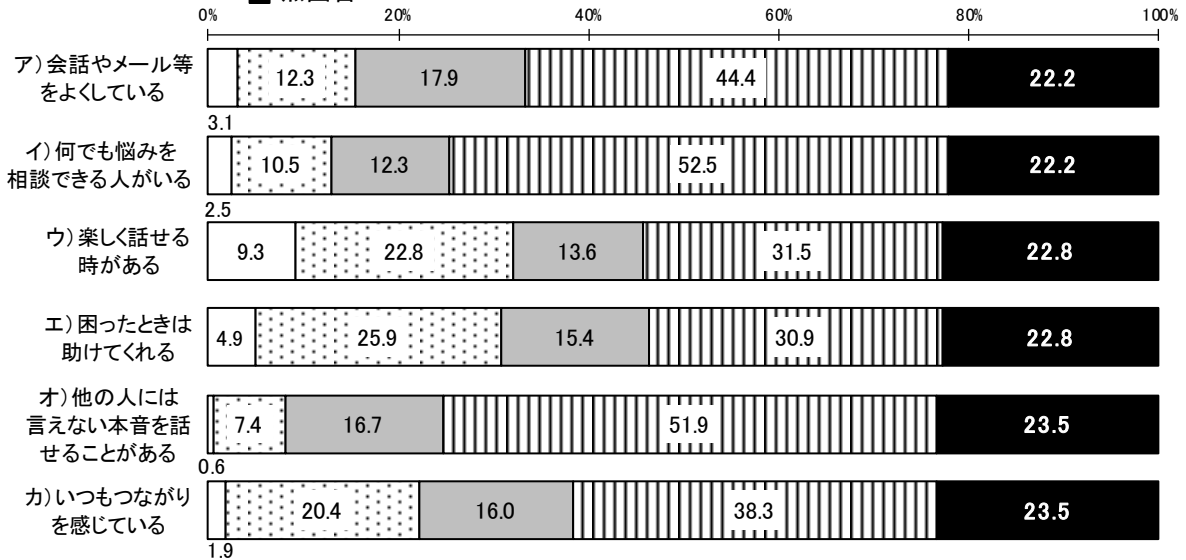
□ そう思う

▨ どちらかといえば、そう思う

■ どちらかといえば、そう思わない

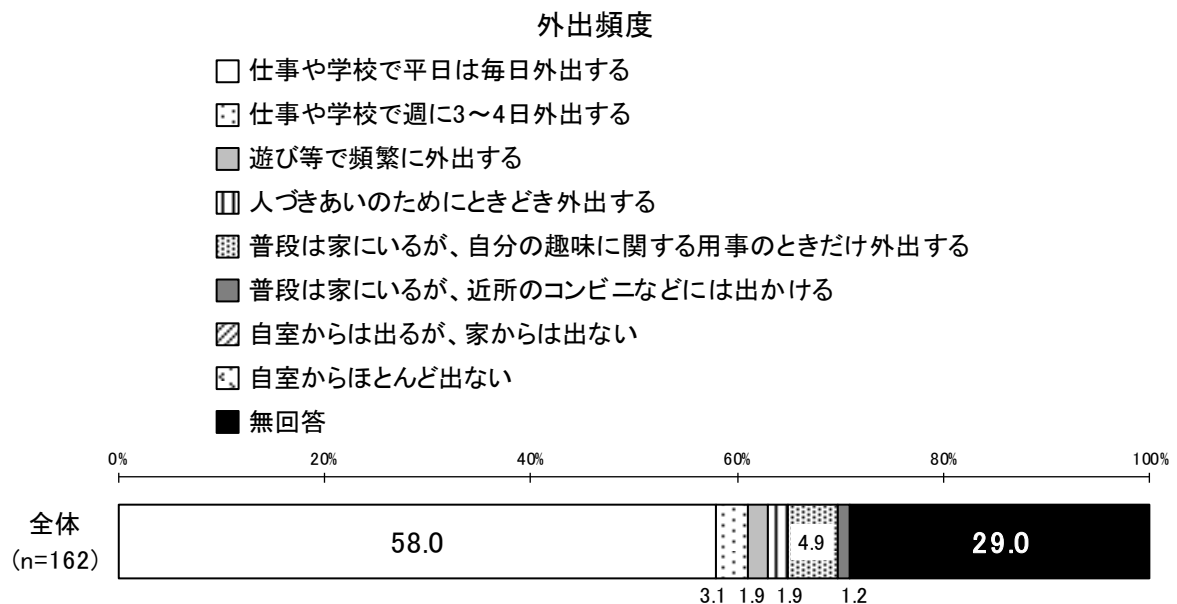
▩ そう思わない

■ 無回答



3 外出状況について

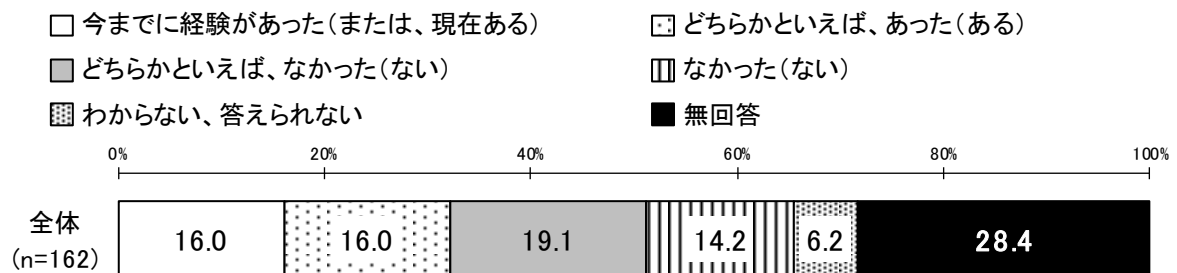
◆「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が半数以上を占める



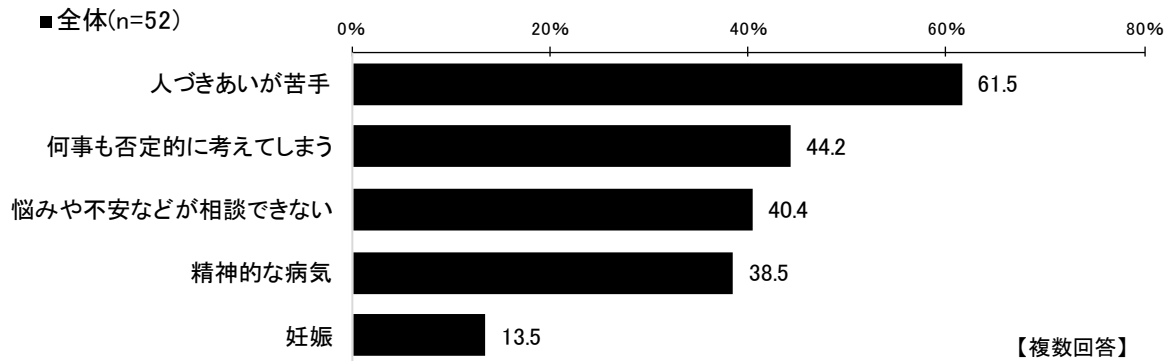
4 日常生活について

- ◆生活を円滑に送ることができなかった経験があると回答した人の割合は32.0%
- ◆生活を円滑に送ることができなかった主な原因は、カテゴリーによってさまざま
- ◆生活を円滑に送ることができなかった状態が改善したことがある人は約6割を占める
- ◆状態が改善したきっかけや役に立ったことの上位は「時間がたって状況が変化したこと」「家族や親戚の助け」「友人の助け」「就職・転職したこと」
- ◆生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手の上位は「相手と同じ悩みを持っている、持っていたことがある」「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」「相手が同世代である」

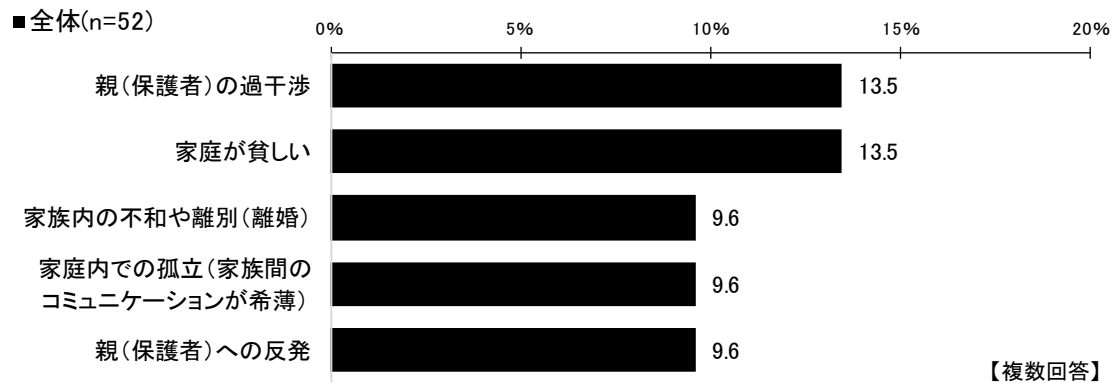
生活を円滑に送ることができなかった経験があるか



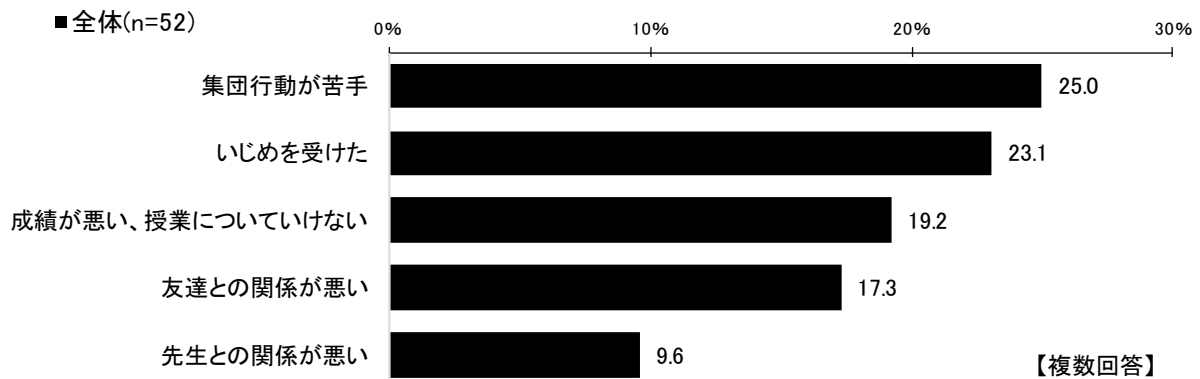
生活を円滑に送ることができなかった原因／自分自身について【上位5項目】



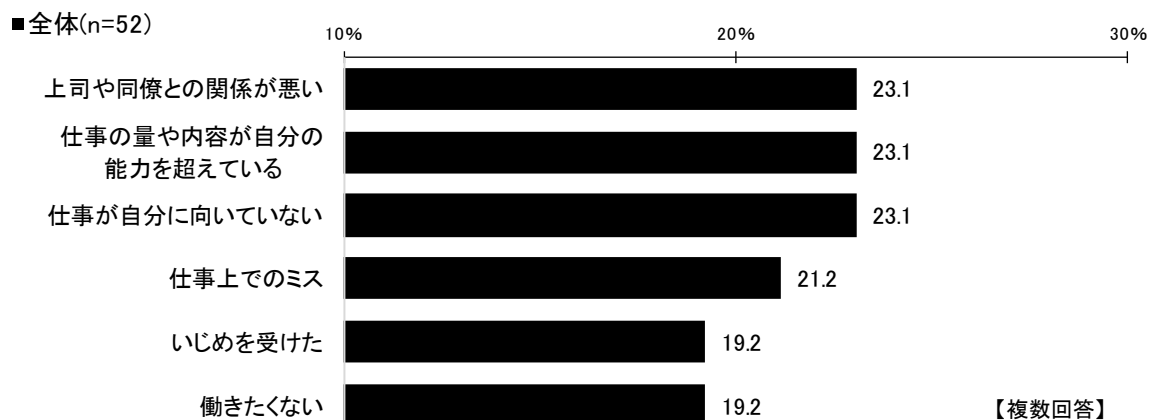
生活を円滑に送ることができなかった原因／家族・家庭について【上位5項目】



生活を円滑に送ることができなかった原因／学校について【上位5項目】

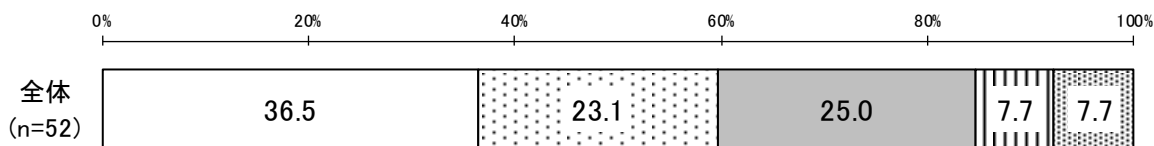


生活を円滑に送ることができなかった原因／仕事・職場について【上位6項目】



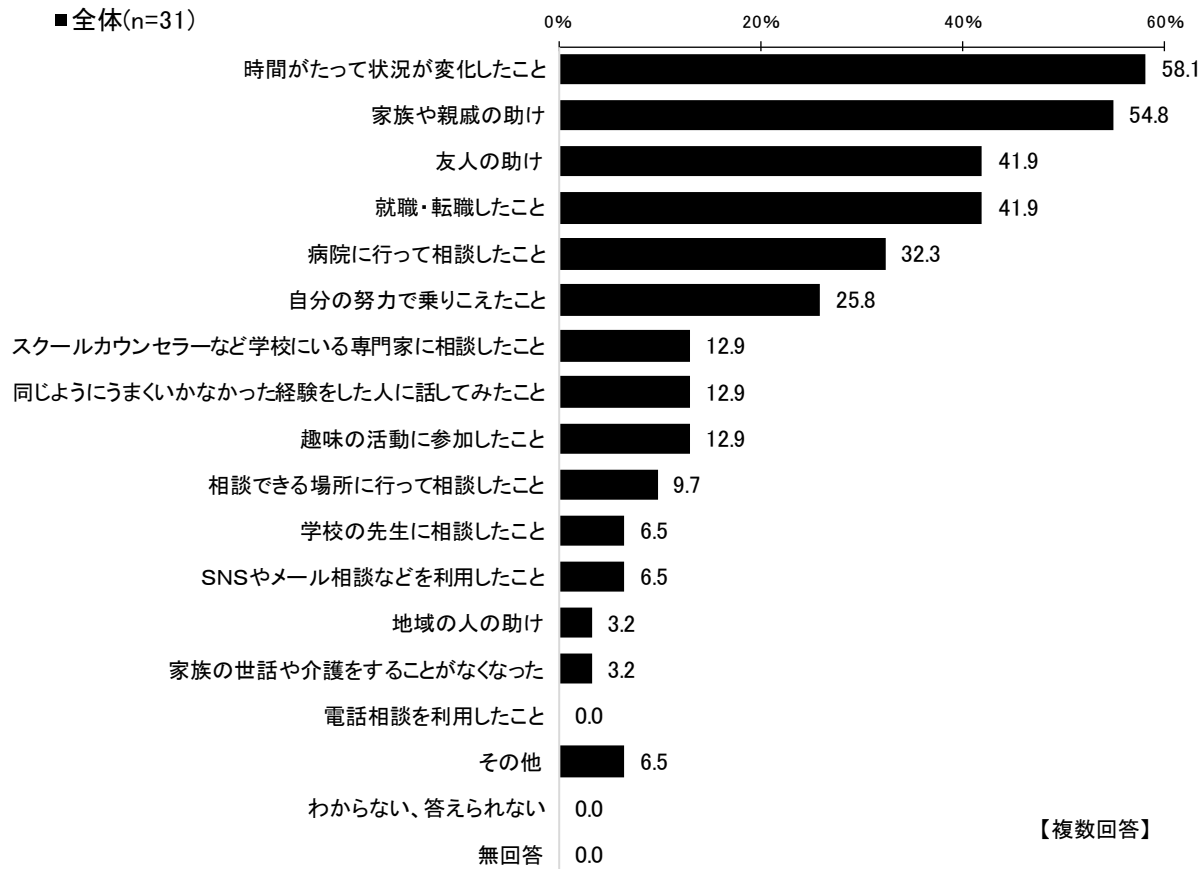
生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験

☐ あった ☐ どちらかといえば、あった ☐ どちらかといえば、なかった
☐ なかった ☐ わからない ☐ 無回答



状態が改善したきっかけや役に立ったこと

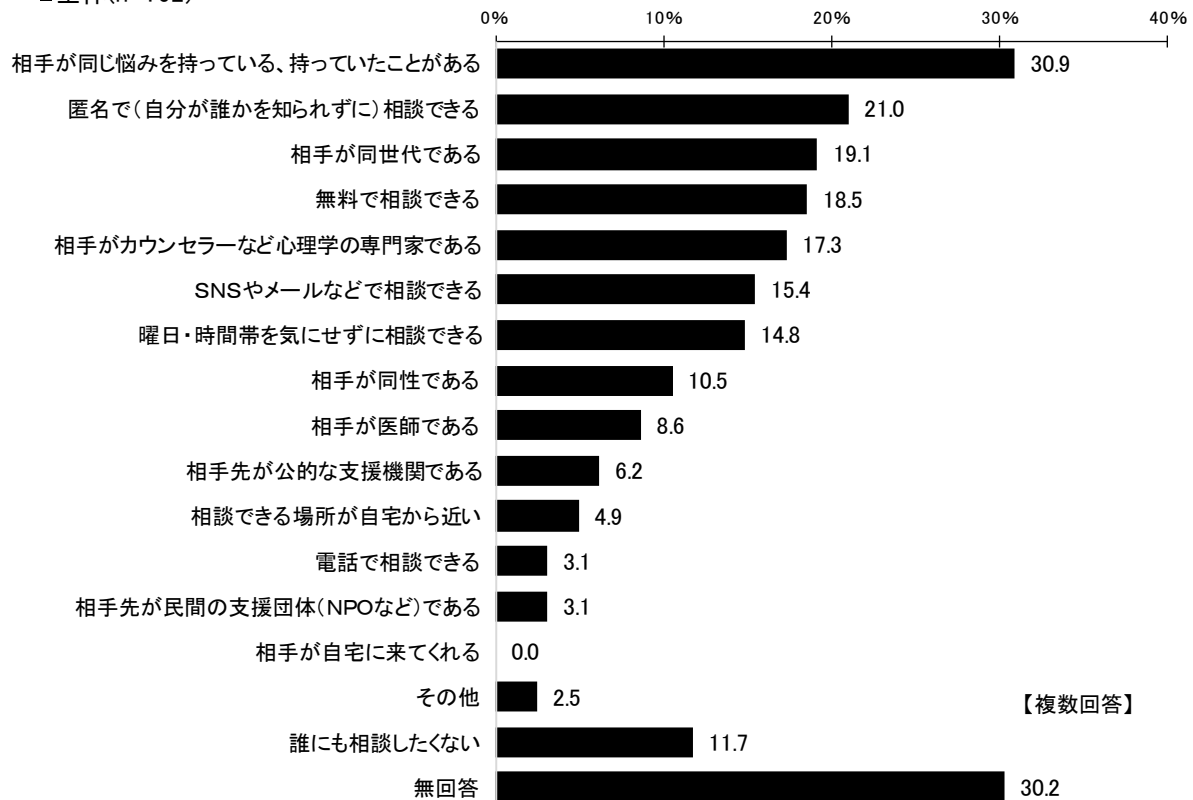
■ 全体(n=31)



【複数回答】

生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手

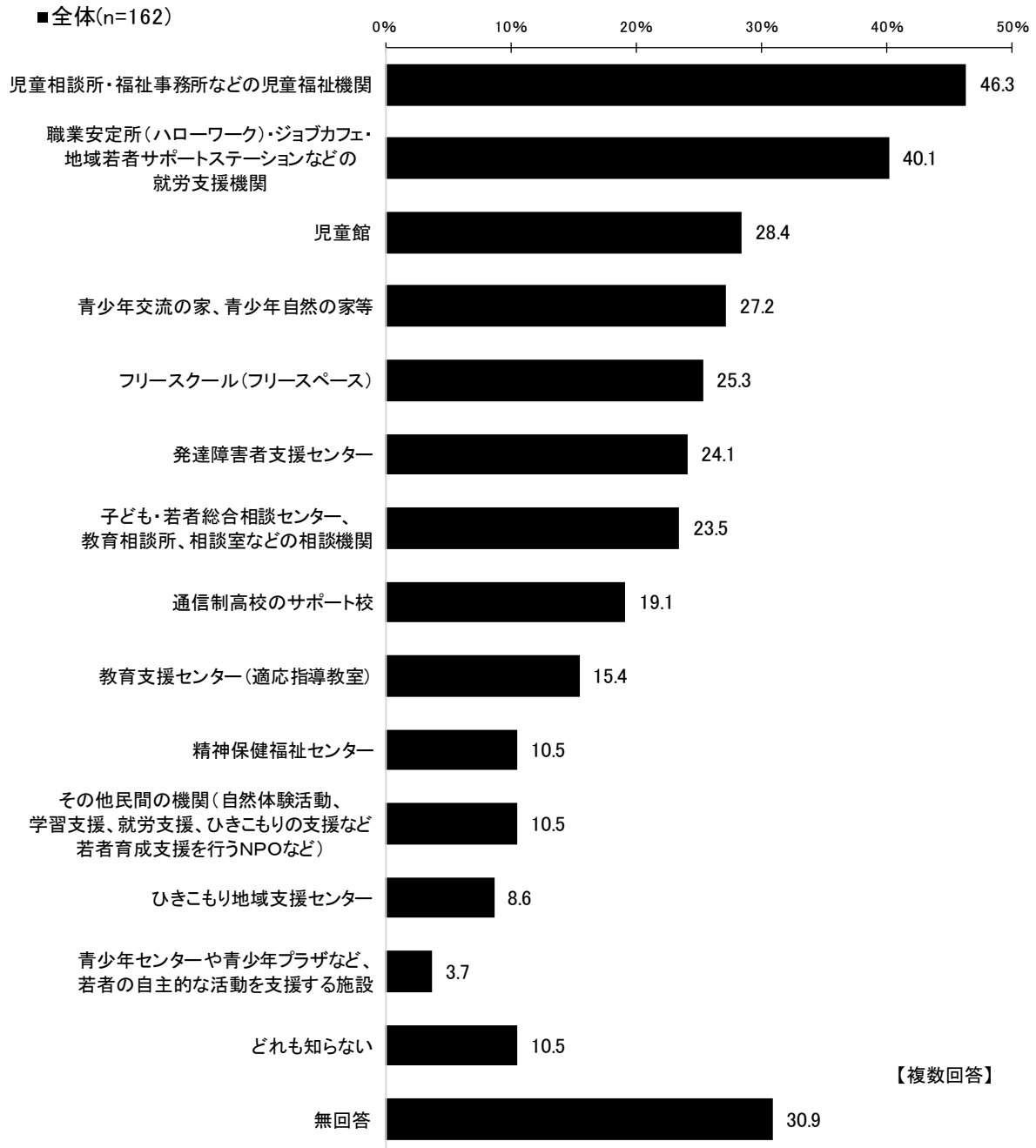
■全体(n=162)



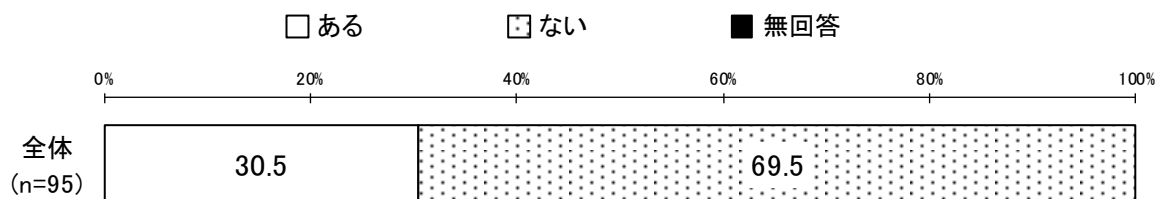
5 子ども・若者を対象にした育成支援機関について

- ◆子ども・若者を対象とした育成支援機関で知られているものの上位は「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」
- ◆回答者の約7割が、子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことがないと回答
- ◆子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したい人の割合は32.1%

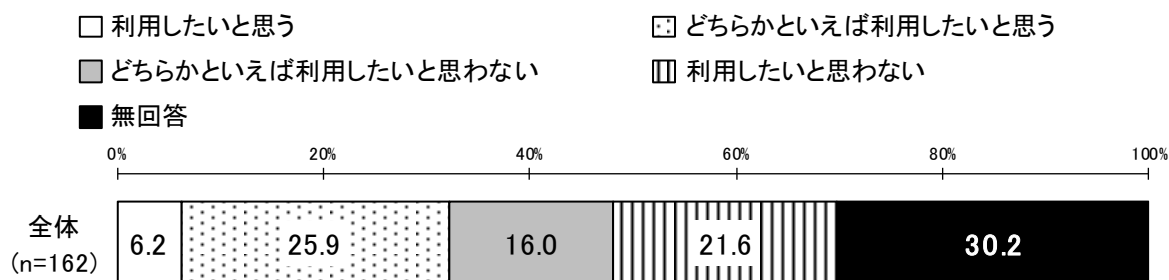
子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知



子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるか



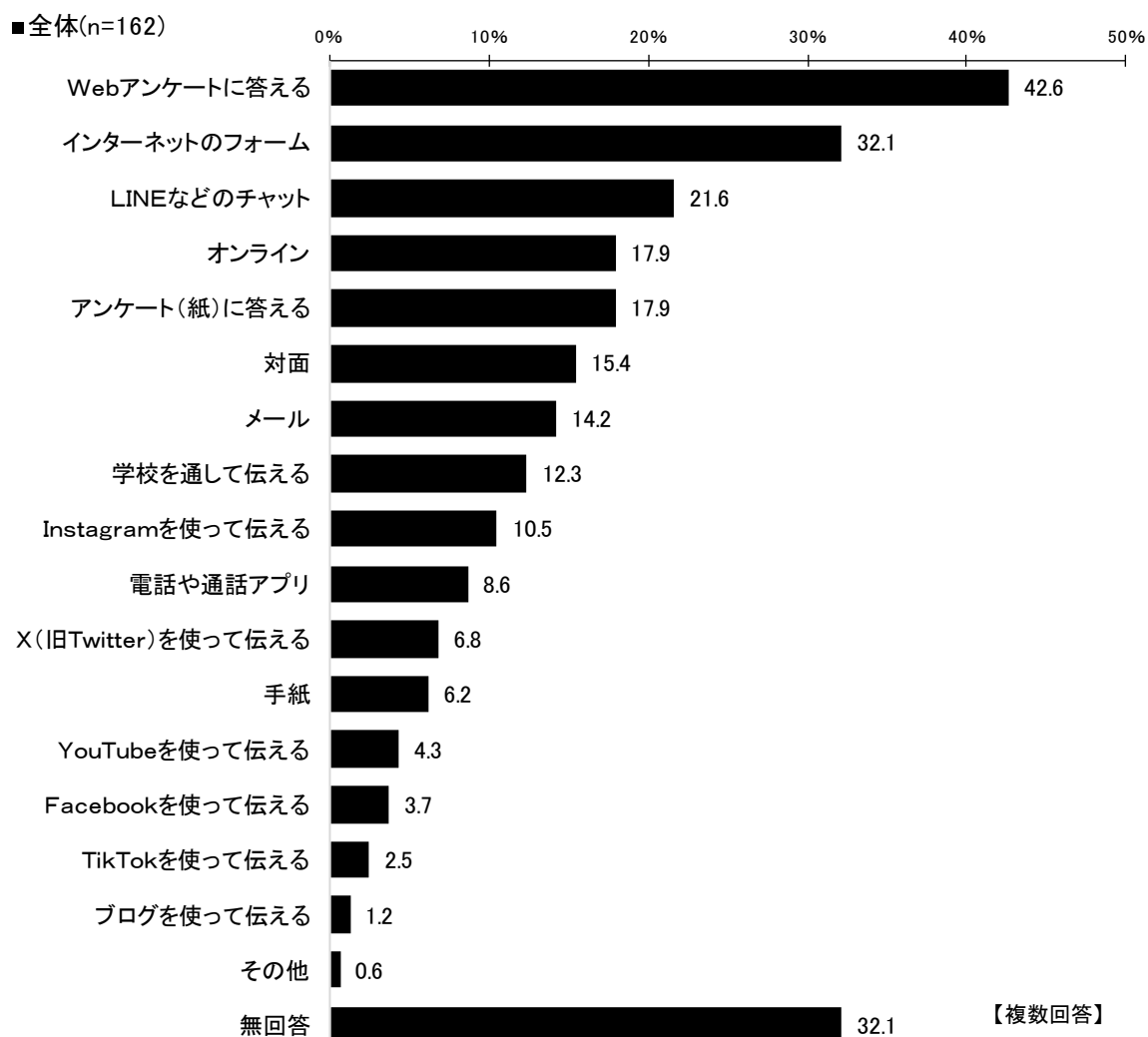
子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいか



6 益田市へ伝えたいことについて

- ◆益田市に意見を伝えやすい方法の上位3項目は「Webアンケートに答える」「インターネットのフォーム」「LINEなどのチャット」となっている
- ◆益田市へ実際に伝えたいことについて自由意見を求めたところ「若者のためのまちづくり」「子どもの遊び場」「小児科の増設希望」「イベント開催要望」などの回答があった
- ◆生活を円滑に送ることができない人への支援のあり方について自由意見を求めたところ「子育て」「学生への支援」などの回答があった

益田市に意見を伝えやすい方法



「（仮称）益田市こども計画」策定のための
アンケート調査結果報告書
《概要版》

発行日	令和6年9月
発 行	益田市 福祉環境部子ども福祉課